

令和4年度

「マイスター・ハイスクール事業」にかかるPDCA
サイクル構築のための調査研究（伴走支援）

成果報告書



2023年5月31日

株式会社ソフィア

Copyright © Sofia, Inc. All rights reserved

資料の説明

本報告書は、文部科学省の「マイスター・ハイスクール事業」にかかるPDCAサイクル構築のための調査研究事業の委託を受けた株式会社ソフィアが令和4年度に実施した調査研究と各指定校への伴走支援の成果を取りまとめたものです。

目次

① 概要説明・令和3年度における課題と対応

② 指定校における事業進捗状況

③ 事業の波及効果

④ 伴走支援活動の成果

⑤ 次年度に向けた課題

1. 概要説明と令和3年度における課題と対応

マイスター・ハイスクール事業の概要と目的

マイスター・ハイスクール（次世代地域産業人材育成刷新事業）

人口減少の一層の進展、農業の「6次産業化」という言葉に表れるような従来の産業分類を超えた産業動態のボーダレス化の加速化等を踏まえると、デジタルトランスフォーメーション（DX）・成長産業化を進めることのできる人材育成を担う専門高校の抜本改革は、我が国全体、全国各地の持続可能成長にとって喫緊の課題であり、とりわけコロナ禍の中、世界全体が第4次産業革命に向けたIoT等のDXを進めていく上で、産業政策と高校教育の結節点である専門高校において、持続可能な産業成長・企業変革力の基盤となる人材供給を担う革新の緊急性は高まる一方である。

中央教育審議会においても、こうした背景を踏まえ、待ったなしの課題として、専門高校を含め高等学校の在り方を議論しているところであり、文部科学省としても、教育課程の開発・実施・改革に至るまで、企業・産業界と教育界が一体化し、成長産業化を図る企業の変動的取組と高校の地域職業人育成改革の同期化に向け、70年の職業系専門高校の歴史上、前例のない、産業界と一体となった職業系の専門高校教育課程・体制を一気呵成に進め、企業のダイナミックケイパビリティの確保・成長産業化を図るとともに、その人材育成機能を持続可能化する令和時代の人材育成システムを新たに構築していくものである。

本事業はこうした考え方の下、地域の職業人育成を担う専門高校における教育改革と成長産業化に向けた企業改革を同期化して進めていくという国家的な社会要請に基づき、国としてモデル事業を行うことで、全国展開に向けた各種コスト低減を図り、各地域での成功事例の創出を目指すものである。

マイスター・ハイスクール事業の概要図

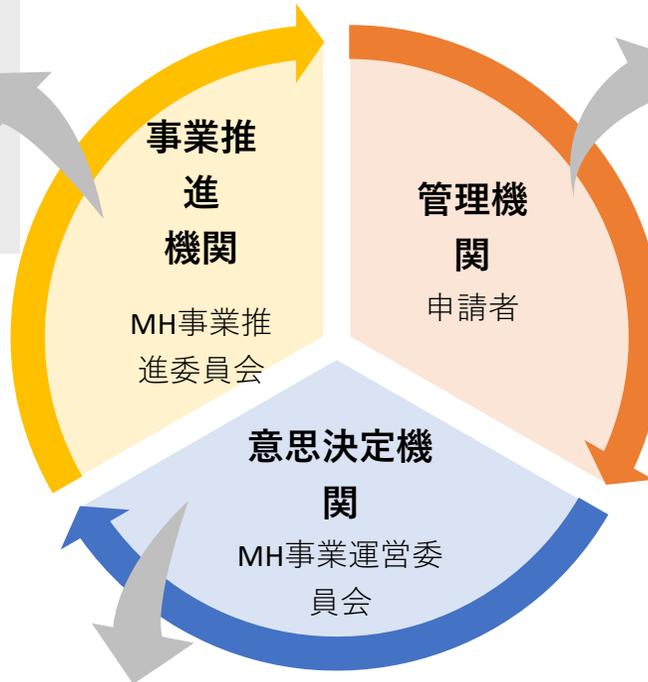
マイスター・ハイスクールCEO
産業実務家教員



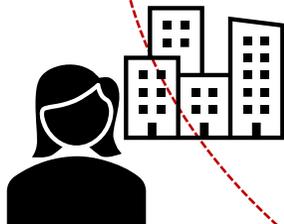
専門高校

- 「マイスター・ハイスクールビジョン」に基づき、**必要な学科や年限の改変も含めた教育課程の刷新**の方向性を検討、決定
- 学科改革等（3年課程の延長等を含む）を協議・検討

- 企業の部長クラスを専門高校の管理職に任用**（マイスター・ハイスクールCEO）
- 技術者を産業実務家教員として任用



地域企業・経済団体



地方公共団体



- 地域産業の未来像の実現に向けて、専門高校で育成すべき人材像の検討
- それに資する**人材を育成するための「マイスター・ハイスクールビジョン」**を策定

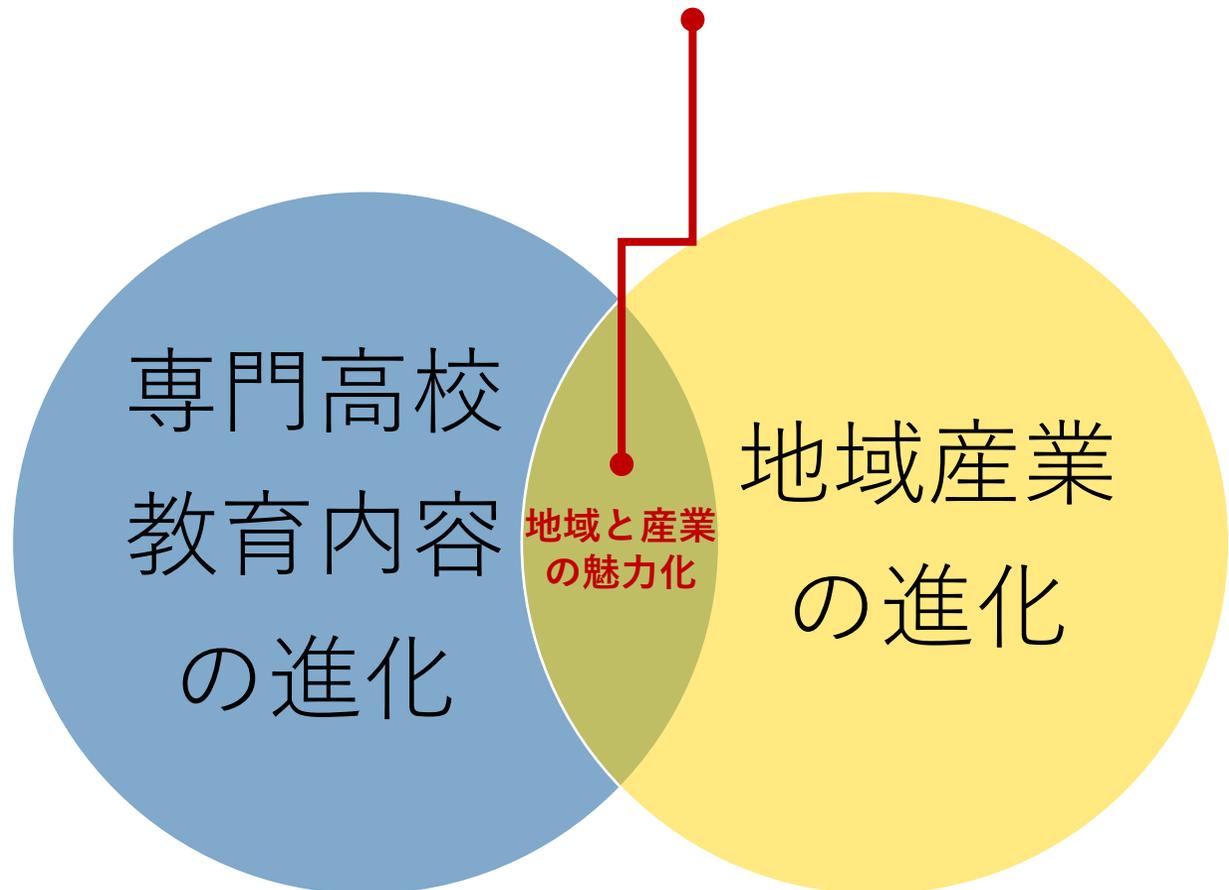
マイスター・ハイスクール事業の目指すもの

目まぐるしく産業界の構造が変化していき、それに伴って産業界から期待される人材像も変化していく中で、**専門高校（商業・農業・工業・水産など）の役割**も変わっていきます。

特に、地域産業への就職率が高い専門高校においては、その人材育成が**直接的に地域産業の進化に寄与し、地域活性化の役割**も担います。

文部科学省の本事業は、**民間から人材を専門高校に管理職相当として派遣し、産業界や自治体と一体となって、求められる人材像やビジョンを描いてカリキュラムを開発していき**ます。**地域産業の進化を担う人材育成の仕組みの刷新を図る**ことを目的としています。

産業界・教育界・行政の
継続的な協働体制の維持継続



調査研究事業（伴走支援）の目的

マイスター・ハイスクール調査研究事業（伴走支援事業）

本調査研究では、マイスター・ハイスクール指定校（産業界と一体となって最先端の職業人材育成に資する教育課程等に関する研究開発を行う専門高校）における研究開発等の取組について、指導助言や成果の検証等を行い、専門高校等と産業界等が一体となった最先端の職業人材を育成することに資する教育課程等の改善のためのフォローアップ支援及びP D C Aサイクルの構築、運用を推進するとともにこうした取組を全国に普及することを目的とする。

事業の内容

マイスター・ハイスクールの取組に対する支援体制（以下、「伴走支援チーム」という。）を構築し、マイスター・ハイスクールにおける研究開発等の各取組について、指導助言や成果の検証等を行い、専門高校等と産業界等が一体となった最先端の職業人材を育成することに資する教育課程等の改善のための指定校へのフォローアップ支援及びP D C Aサイクルの構築、運用を推進する。また、成果と課題を踏まえ、学校と産業界が一体・同期化し、地域の持続的な成長を牽引するための、絶えず進化する最先端の職業人材の在り方を研究する。

指定校の概要 | R3年度採択

学校名	対象学科	ビジョン
北海道静内農業高等学校	農業	地域発次世代イノベーター人材の育成～持続可能な日高農業の創り手～
福島県立小高産業技術高等学校	工業 商業	ふくしまの未来を創るテクノロジスト育成事業
新潟県立海洋高等学校	水産	未来を担う海洋・水産プロフェッショナル人材育成システムの構築 ～糸魚川・能生から海洋リーダーを育てるLINKプロジェクト～
福井県立若狭高等学校	水産	若狭地域の Well-being を実現するために地域水産業の成長産業化に 貢献できる人材育成のための水産海洋教育カリキュラム開発
福井県立坂井高等学校	農業 工業 商業 家庭	学科横断型DX研究による次世代産業人材育成体制の構築
山梨県立農林高等学校	農業	山梨ワイン発展のための協働と若手技術者の育成 ～ワイン醸造学習を中心としたワイン県やまなしの地域資源活用、地域活性化、新たな価値を創造する職業人材の育成を目指して～
滋賀県立彦根工業高等学校	工業	変化への挑戦（Challenge For Change） ～進取の気性を生かし持続可能な新たな地域産業を共創できる技術人財の育成～
岡山県立真庭高等学校	農業 商業	地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレーヤーの創出
広島県立庄原実業高等学校	農業	自然・社会・人との対話で育む真庭型産業人材育成構想 -「環境（SDGs）」×「アグリビジネス」→豊かな生き方・働き方-
大分県立大分東高等学校 大分県立久住高原農業高等学校	農業	農山村漁村を牽引する担い手確保・育成事業 ～農業系高校と産業界との一体・同期化による次世代担い手育成プロジェクト～
宮崎県立延岡工業高等学校	工業	ひむか未来マイスター・ハイスクール事業 ・これからの地域産業界を担う人材育成（付加価値の高い商品開発・ビジネスモデル 変革を目指す） ・予測困難な社会の変化、主体的に対応できる資質 ・地元企業にて持続可能な地域や社会の実現に貢献
熊本県立八代工業高等学校	工業	優れた人材や技術の「X（融合）」を追究し、DX時代の夢をつなぐ創造的エンジニアの育成

指定校の概要 | R4年度採択

学校名	代表管理機関	管理機関 (産業界)	管理機関 (自治体)	対象 学科	ビジョン	事業概要
北海道厚岸翔洋高等学校	北海道教育委員会	厚岸漁業協同組合	厚岸町	水産	地域の未来を創るマリン・イノベーターの育成～IT導入による持続可能な地域社会の創造～	北海道は、日本海、太平洋、オホーツク海と特性の異なる3つの海に囲まれており、基幹産業の1つである水産業は、生産量・額ともに全国トップを誇っている。道東に位置する厚岸町は、豊かな自然に恵まれカキやコンブの一大産地であるものの、人口減少等により、水産業の従事者数は減少傾向にある。こうしたことから、町内唯一の高校であり、水産科を有する厚岸翔洋高校が指定校となって、地域の産業界（漁協、道の駅）や自治体（厚岸町）と連携・協働し、IT技術を活用した「スマート水産業」に関わる機器の設置、取り扱い方法及び取得データの有効活用のほか、未利用資源の活用、新たな商品化に向けた取組を通して、将来、「スマート水産業」を牽引する拠点地域となるよう、三者が一体となって人材育成を図るとともに、地域創生につなげる事業とする。
埼玉県立大宮工業高等学校	埼玉県教育委員会	一般財団法人埼玉県経営者協会	埼玉県	工業	新たな社会 (Society5.0×DX時代)を支える次世代マイスターの育成	本事業は、実施校と産業界が連携し STREAMS 教育カリキュラムを開発し実践するとともに、教職員の技術力の向上を図る拠点校となり、県内全ての工業高校生を次世代マイスターとして育成することを目指す。そのために「工業高校 DX 人材育成コンソーシアム」を形成し、経済団体・企業・研究機関・大学等の支援の下、産業界と連携し、STREAMS教育のカリキュラムを開発するとともに、外部人材の指導による最先端デジタルものづくりなど、工業高校におけるDXを推進する。教職員の技術力向上を図るため、工業技術研修センターとしての機能を併せ持ち、民間企業や大学等の外部人材による、継続的な技術指導及び支援を行う。
静岡県立浜松城北工業高等学校	静岡県教育委員会	ヤマハ発動機株式会社	浜松市	工業	やらまいか精神を取り入れた浜松型デジタル人材の育成プロジェクト～社会で活躍できるスペシャリストの育成～	○ヤマハ発動機、浜松市、静岡県教育委員会及び本校の連携によって、地元企業が求める人材像を共有するとともに、人間性と専門性を備えたスペシャリストの育成を図る。 ○「第2期はままつ産業イノベーション構想」において、「ロボティクス」は7つの成長分野の一つに掲げられている。本事業では、ヤマハ発動機を中心として、(公財)浜松 地域イノベーション推進機構と連携することで、ロボット産業で働く即戦力を育成する。 ○ヤマハ発動機は世界トップクラスのロボティクス・デジタル人材の派遣や包括的な実習環境の提供によって、浜松市は地域産業の現状共有や地域の魅力の効果的発信によって、静岡県教育委員会はそれらの支援を総括することによって、本事業を行う。

令和3年度報告書 再掲 | 今後の課題と次年度の活動



目的



進め方

1

学校現場における
事業推進に対する
支援

学校現場の課題に合わせた
伴走体制の構築

- 学校のタイプに合わせてプロセスコンサルタント/
コーディネーター/アドバイザー的伴走の組み合わせを設計する
- 学校現場と事業推進に関する課題認識について対話、今年度の
重点テーマをすり合わせていく (ルーブリックの活用)
- 学校の重点テーマに合わせた伴走支援体制を構築していく
(伴走者のスキル経験×学校の重点テーマに精通するアドバイザーのペア)

2

ビジョン共有、
協業体制への進化、
事業の継続性

自走による事業の継続に向けた
ステークホルダーへの働きかけ

- 本テーマに関する勉強会を開き、出席対象者を学校関係者に加え、
各管理機関に広げていく
- 指定校ごとの個別テーマに関して、それぞれの運営委員会、
事業推進委員会へ働きかけや情報提供を行っていく

3

モデル化、その他
地域への展開

モデル校としての知見のまとめ、
県内の専門高校への展開

- 普及に向けて先行して実践している学校現場について情報収集を行い、
他の指定校への共有を行う
- 普及に向けた枠組みや推進体制を構築すべく、管理機関である
県教育委員会に働きかけ、勉強会などを開催していく

4

専門高校の
ブランディング

指定校の取り組みとその価値を
幅広く発信

- 指定校の取り組みとその価値を動画やパンフレット形式にまとめ、
地域中学校や企業へ伝達していく
- すぐれた指定校の取り組みを全国的に告知していくための情報発信と
PR活動を推進していく

令和3年度報告書における課題への支援状況

令和4年度の各指定校への伴走支援内容の一覧は以下の通りです。

学校名	事業推進に対する支援	ビジョン共有、協業体制の進化、事業の継続性	モデル化、その他地域への展開	専門高校のブランディング
北海道静内農業高等学校		○		○
福島県立小高産業技術高等学校	○	○		○
新潟県立海洋高等学校	○	○		○
福井県立若狭高等学校	○	○		○
福井県立坂井高等学校	○	○		○
山梨県立農林高等学校	○	○		○
滋賀県立彦根工業高等学校	○	○		○
岡山県立真庭高等学校	○	○		
広島県立庄原実業高等学校	○	○		○
大分県立大分東高等学校	○	○	○	○
大分県立久住高原農業高等学校	○	○	○	○
宮崎県立延岡工業高等学校	○	○	○	○
熊本県立八代工業高等学校	○	○	○	○
北海道厚岸翔洋高等学校	○	○		
埼玉県立大宮工業高等学校	○	○		
静岡県立浜松城北工業高等学校	○	○		



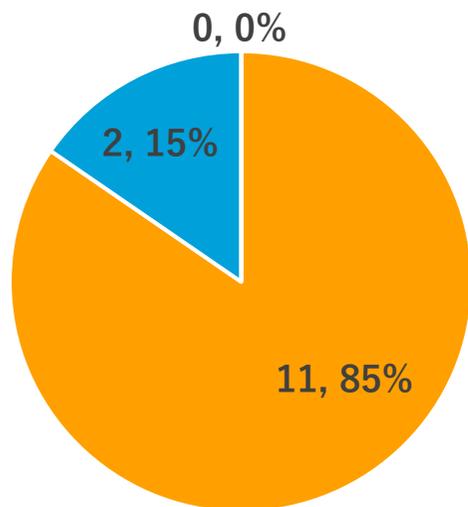
2. 指定校における事業進捗状況



各指定校の事業推進状況について

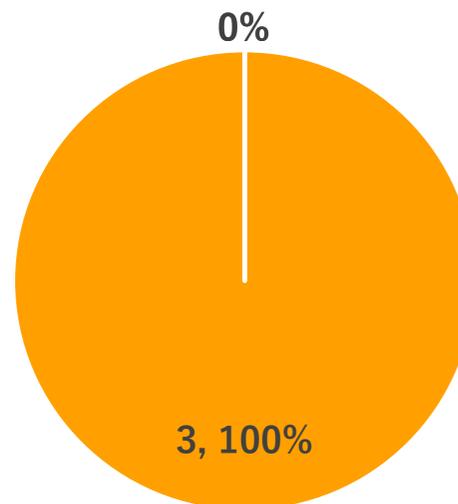
指定校において計画通りに、産業界と連携した事業の推進ができているかどうか

R3年度指定校



■ 計画通り ■ 一部計画通りに進んでいない ■ 全く計画通りに進んでいない

R4年度指定校

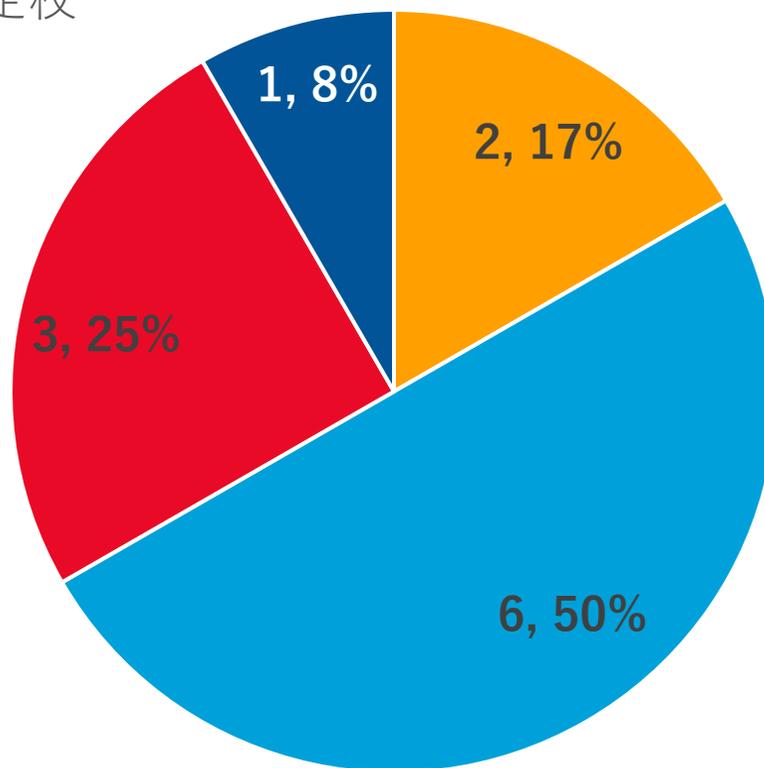


■ 計画通り ■ 一部計画通りに進んでいない ■ 全く計画通りに進んでいない

自走化に向けた予算確保の検討状況

R3年度指定校において自走化に向けた予算確保などの検討が進められているかどうか

R3年度指定校



■ 予算確保済み ■ 一部予算確保 ■ 関係各所へ打診中 ■ 未着手

文部科学省による視察と評価 | 熊本県立八代工業高校

日時：2022年9月22日（木）

視察参加者：

【文部科学省関係】

【企画評価会議委員】

【伴走支援事務局】

スケジュール：

9:30～ あいさつ・学校紹介

9:55～ 産業実務家教員授業及び施設見学等

工業化学科⇒機械科⇒電気科⇒インテリア科⇒情報技術科
⇒普通科

11:55～ 昼食

12:45～ 業概要説明・意見交換等

マイスター・ハイスクールビジョンの進捗状況及び課題と今後の展望

令和4年度の事業取組内容

(ア) 産業実務家教員等による授業

(イ) 企業実習

評価のポイント

- 県教委、県知事部局、産業界、学校現場の強固な協働体制
- 教師の変化が持続可能性であり、学校組織文化としていくことが重要、教職員の変化が著しい
- 協力企業のメリットを大切にして産業界との協働体制を構築している
- この事業自体の評価の仕組みや考え方



文部科学省による視察と評価 | 山梨県立農林高校

日時：2022年9月28日（水）

視察参加者：

【文部科学省関係】

【企画評価会議委員】

【伴走支援事務局】

スケジュール：

10:40～ ご挨拶（黎明館）

10:55～12:45 2年食品科学科総合実習視察
実習内容：ワイン製造実習（食品科学科棟）
農場視察

12:45～13:30 昼食（黎明館）

13:30～15:00 意見交換（黎明館）

議題：

参加者の自己紹介

MHS事業概要説明（副農場長、CEO）

企画評価会議委員の皆さまからのご質問・意見

指定校関係者と教育委員会にて回答

ディスカッション

評価のポイント

- KGI・KPIを設定した事業活動の評価の仕組み
- 高校と産業界が一体化し地域そのものを産業教育のフィールドへと進化
- 技術者を育成している実績から地元企業の協力が得られていること
- 生徒の連携やチーム力を高める内容となっている



文部科学省による視察と評価 | 福井県立若狭高校

日時：2022年10月19日（水）

視察参加者：

【文部科学省関係】

【企画評価会議委員】

【伴走支援事務局】

スケジュール：

9:30～ ご挨拶

9:45～11:15 水産科の授業視察 海洋キャンパスで2年生の課題研究。
24の研究テーマの進捗状況等について

11:30～12:00 本校の視察（状況を見ながら）

12:00～13:00 昼食

13:00～15:00 意見交換：議事進行 廣

議題：

参加者の自己紹介

事業概要説明

企画評価会議委員の皆さまからのご質問・意見

指定校関係者と教育委員会にて回答

ディスカッション

評価のポイント

- ・ 地域との繋がりが資産となり、レベルの高い協働体制、授業内容に
- ・ 生徒の主体性を引き出す教員、風土、仕組み
- ・ 海洋体験を産業にしていけるといった高いポテンシャルがある
- ・ 世界一の水産高校になれる、世界一の人材育成の場所になれる可能性
- ・ 学校内の組織マネジメントがうまくいっている、オーセンティックリーダーシップ



指定校の取り組みに関する今後の課題

指定校個別課題 の解決

一部計画通りに進んでいない指定校への支援
事業推進体制の再構築へのテコ入れを行う

自走化に向けた 共通課題の推進

事業終了後の座組・資金調達
「これまでの振り返りと教育課程への反映」
「県内普及・広域連携」についての積極的推進を行う

ビジョンの 再点検・評価

ビジョンの観点からの取り組みを評価できているかどうか
自走に向けて改めてビジョンや将来像を関係機関で共有、確認する機会を設ける

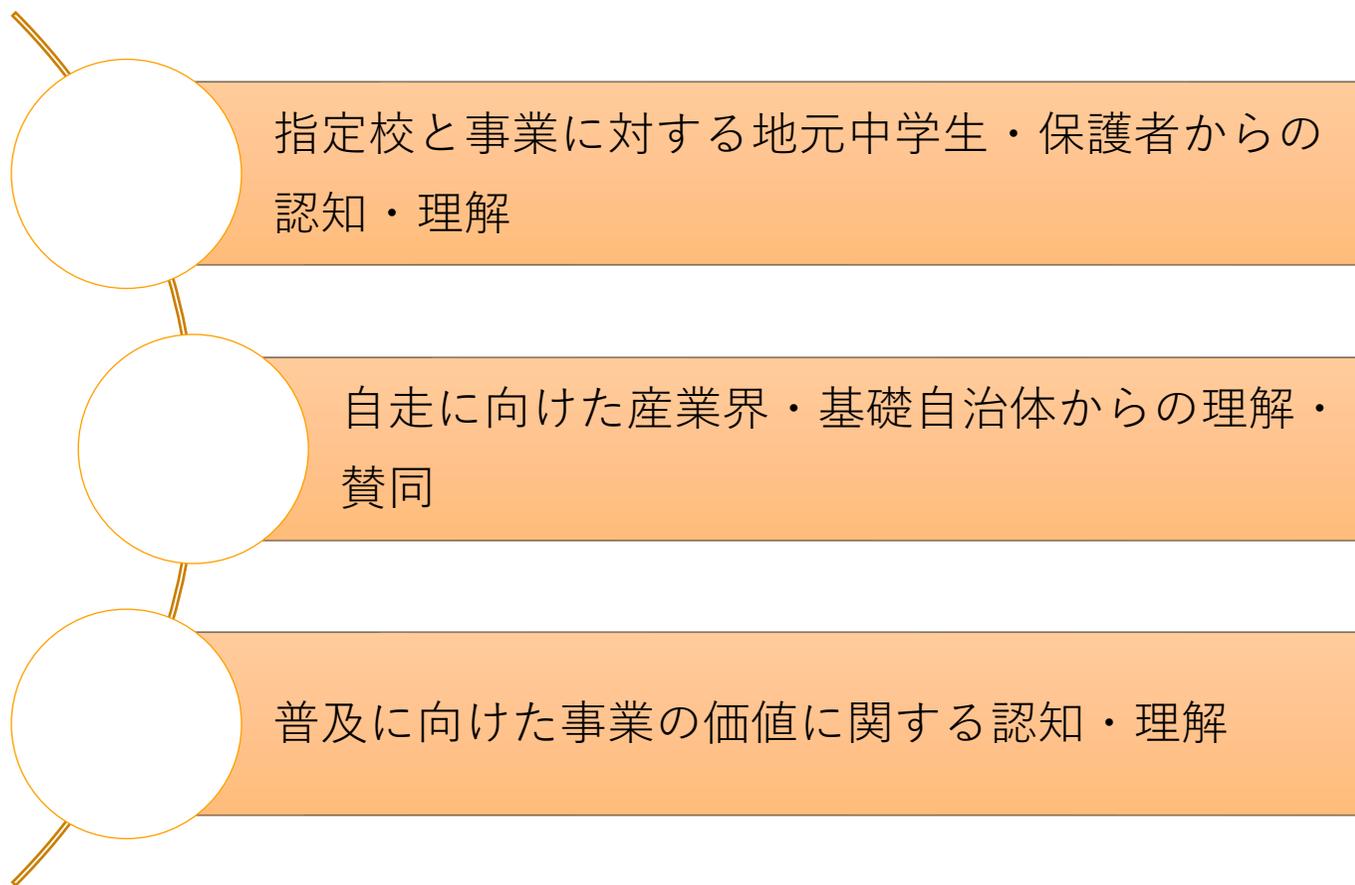


3. 事業の波及効果



事業の波及効果や持続可能性を生み出す要素

事業の波及効果並びに指定校の事業の持続可能性を生み出す基礎的な要素を以下の3つを掲げ施策を実施



指定校と事業に対する地元中学生・保護者からの認知・理解 | PRパンフレット

指定校の地元中学校向けに事業の魅力伝えるPRパンフレットの制作と配布

滋賀県立彦根工業高校：6,500部

宮崎県立延岡工業高校：100部



熊本県立八代工業高校：2,500部×2回

新潟県立海洋高校：5,000部



指定校と事業に対する地元中学生・保護者からの認知・理解 | PRパンフレット

広島県立庄原実業高校：5,000部



大分県立大分東高校：5,000部



福井県立坂井高校：3,000部



福島県立小高産業技術高校：2,500部×2回

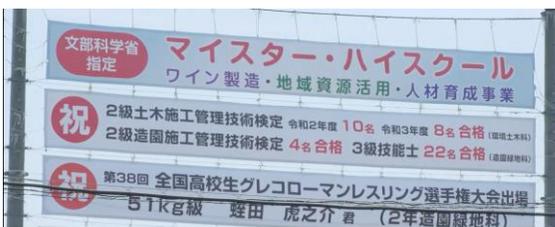


山梨県立農林高校：1,000部



指定校と事業に対する地元中学生・保護者からの認知・理解・賛同 | PR動画

地元中学生・基礎自治体などに事業の魅力伝えるPR動画の制作



- 滋賀県立彦根工業高校
- 福井県立若狭高校
- 福島県立小高産業技術高校
- 大分県立大分東高校
- 広島県立庄原実業高校

- 熊本県立八代工業高校
- 山梨県立農林高校
- 大分県立久住高原高校
- 北海道静内農業高校
- 宮崎県立延岡工業高校

自走に向けた産業界・基礎自治体からの理解・賛同 | 報告会

県内普及に向けて指定校独自の成果報告会を実施

福井県立坂井高等学校 中間成果発表会

- ・ 日時：2022年12月17日
- ・ キャリア教育推進フォーラムと同日同会場の開催
- ・ あわら市や坂井市、三国高校や近隣中学校7校、保護者も含めて多人数が来場

熊本県立八代工業高等学校 中間成果発表会

- ・ 日時：2023年1月16日
- ・ 参加教育委員会：青森、秋田、茨城、埼玉、東京、山梨、静岡、京都、福岡、大分、鹿児島、仙台市
- ・ 参加高校 54校（県内26校、県外28校）

滋賀県立彦根工業高等学校 中間成果発表会

- ・ 日時：2023年2月22日
- ・ 商工会議所及び会員企業、MHSに関わっている企業、県内工業高校

宮崎県立延岡工業高等学校 中間成果発表会

- ・ 日時：2023年3月22日
- ・ 管理機関、運営委員会委員、事業推進委員会委員、関係県内企業、県内工業系高等学校6校

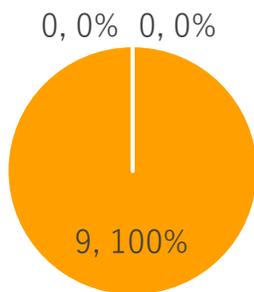
自走に向けた産業界・基礎自治体からの理解・賛同 | 産業界へのアンケート

マイスター・ハイスクール事業への協力企業

インターンシップ受け入れ先の企業からは「自社にメリットあり」との回答

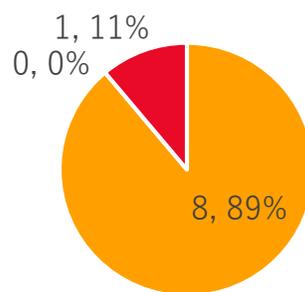
滋賀県立彦根工業高等学校 デュアルシステム受け入れ先企業の現場からの声

デュアルシステムを実施することで
あなたにメリットはありましたか



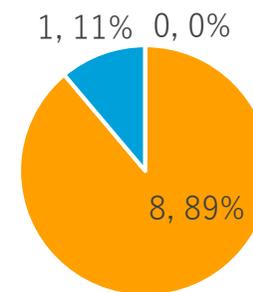
■ はい ■ いいえ ■ どちらとも言えない

デュアルシステムを実施することで
会社にメリットはありましたか



■ はい ■ いいえ ■ どちらとも言えない

デュアルシステムは地域社会にメリットが
あると思いますか？



■ はい ■ いいえ ■ どちらとも言えない

自走に向けた産業界・基礎自治体からの理解・賛同 | 産業界へのアンケート

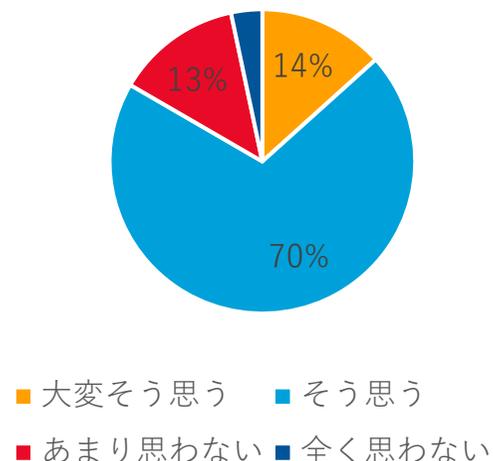
マイスター・ハイスクール事業への協力企業 事業に関わった企業担当者からは「活用価値あり」との回答

熊本県立八代工業高等学校 事業に関わる企業担当者の声

マイスター・ハイスクール事業の企業側の活用
(どのようなことに活用できるか、複数回答)



マイスター・ハイスクール事業に関わることで
社内の意識改善に繋がる



普及に向けた認知・理解 | Yahoo記事での展開

熊本県立八代工業高等学校

2022/9/8配信

「【マスター・ハイスクール】
DX時代の創造的エンジニアを育成する場作りとは？」

【マスター・ハイスクール】DX時代の創造的エンジニアを育成する場作りとは？（熊本県立八代工業高校）

矢萩邦彦 | アルスコピネーター/知富学舎塾長/多摩大学大学院客員教授
2022/9/8(木) 11:16



ネットワーク、データサイエンスを学ぶ工業化学科の授業（写真：学校提供）

新潟県立海洋高等学校

2022/10/22配信

「【マスター・ハイスクール】
未来をになう海洋・水産のプロを育成する職業教育とは？」

【マスター・ハイスクール】未来をになう海洋・水産のプロを育成する職業教育とは？（新潟県立海洋高校）

矢萩邦彦 | アルスコピネーター/知富学舎塾長/多摩大学大学院客員教授
2022/10/20(木) 11:30



学校が持つ実習船「海洋丸」は年間100日ほど海に出る（学校提供）

福井県立若狭高等学校

2023/2/2配信

「【マスター・ハイスクール】
教育で地域のウェルビーイングを実現するには？」

【マスター・ハイスクール】教育で地域のウェルビーイングを実現するには？（福井県立若狭高校）

矢萩邦彦 | アルスコピネーター/知富学舎塾長/多摩大学大学院客員教授
2/2(木) 11:00



兼プロのたのしみ漁を体験する生徒たち（写真：若狭高校提供）

普及に向けた認知・理解 | 中間成果発表会

中間成果発表会をオンラインで一般公開し事業の認知と理解を促進

中間成果発表会

日時：2022年11月7日

場所：港区産業振興センター

人数：現地参加 117名/オンライン参加 約100名



当日の基調講演

令和4年度マイスター・ハイスクール事業中間成果発表会

時間	内容	場所	オンライン 配信
10:00~10:05	開会挨拶	11階 ホール大	オンライン 配信
10:05~10:25	基調講演	11階 ホール大	
10:30~11:45	中間成果発表 (前半)	※下記タイムテーブル参照	
11:45~12:45	休憩 (昼食)	☆会場内、飲食可能です ※ごみは持ち帰り	
12:45~14:00	中間成果発表 (後半)	※下記タイムテーブル参照	
14:00~14:15	分科会説明	※中間成果発表と同じ	
14:25~15:55	分科会	テーマ①：11階 ホール小 テーマ②：10階 研修室1 テーマ③：10階 会議室3&4	
15:55~16:30	休憩	☆物品販売 (10階ワークルーム1)	
16:30~16:50	分科会共有	11階 ホール大	
16:50~17:00	閉会挨拶	11階 ホール大	18:00まで 会場開放

中間成果発表タイムテーブル

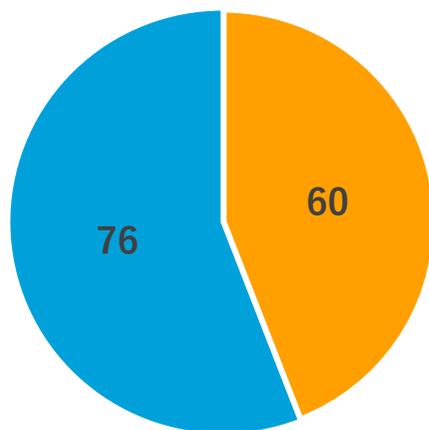
	A (11階 ホール小)	B (10階 研修室1)	C (10階 会議室3&4)	D (10階 会議室2)
① 10:30 ~ 11:05	滋賀県立彦根 工業高等学校 (工業)	北海道静内農 業高等学校 (農業)	福井県立若 狭高等学校 (水産)	埼玉県立大宮 工業高等学校 (工業)
② 11:07 ~ 11:42	宮崎県立延岡 工業高等学校 (工業)	広島県立庄原 実業高等学校 (農業)	新潟県立海 洋高等学校 (水産)	静岡県立浜松 城北工業高等 学校 (工業)
③ 12:45 ~ 13:20	福島県立小高 産業技術高等 学校 (工・ 商)	山梨県立農林 高等学校 (農 業)	岡山県立真 庭高等学校 (農・商)	北海道厚岸翔 洋高等学校 (水産)
④ 13:22 ~ 13:57	熊本県立八代 工業高等学校 (工業)	大分県立大分東 高等学校・久住 高原農業高等学 校 (農業)	福井県立坂 井高等学校 (農・工・商・ 家)	—

当日の式次第

普及に向けた認知・理解 | 中間成果発表会

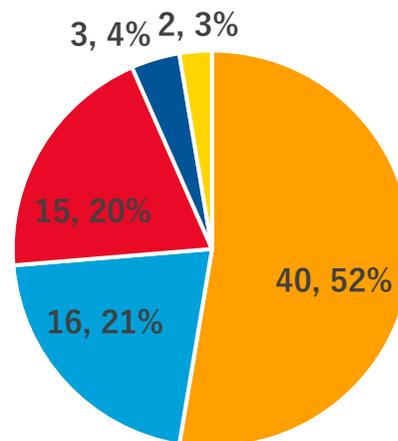
事業関係者以外の参加者にアンケート、7割以上が取り組んでみたいと回答

当日参加者 アンケート回答136名



■ 事業関係者 ■ 一般参加者

産業界からの民間人材を学校に起用した人材育成に
取り組んでみたいかどうか

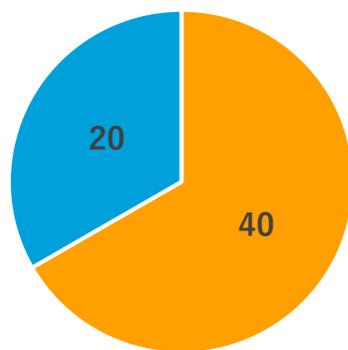


- 予算や連携機関など条件が整えば取り組んでみたい
- 取り組んでみたい
- どちらとも言えない
- 既に取り組んでいる
- あまり関心はない

普及に向けた認知・理解 | 中間成果発表会

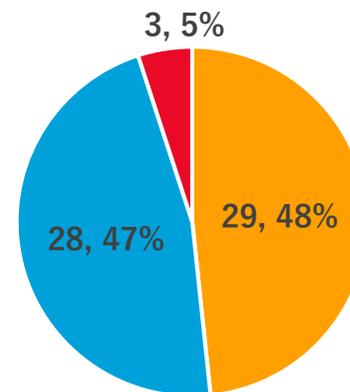
事業関係者の参加者アンケートでは、95%の参加者が「満足」と回答

参加方法（オンライン・現地参集）



■ 現地参集 ■ オンライン

中間成果発表会の運営に関する満足度



■ とても満足している ■ ある程度満足している
■ あまり満足していない

事業の普及における今後の課題

指定校の実績・ 成果のPR

指定校の実践が優良事例として広く認識されること。その事例をもとにノウハウやプロセスが視覚化され、モデルとして参照・参考にできるような知見としてまとめられていること。

地域産業における 価値/意味の共有

地域の産業界や企業から幅広く認知されること。産業界・自社にとって関わることの意味や価値が明確になり、共有されること。

事業全体の価値 の視覚化

事業が生み出す価値や可能性について、データや根拠を示せること。中長期の視点で各ステークホルダーが関与できる仕組みを整えること

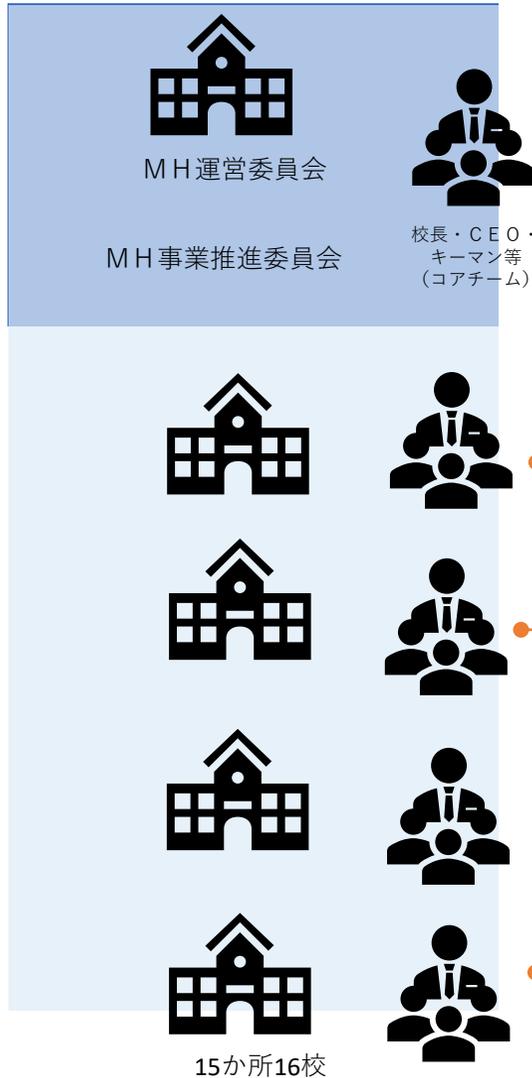


4. 伴走支援活動の成果

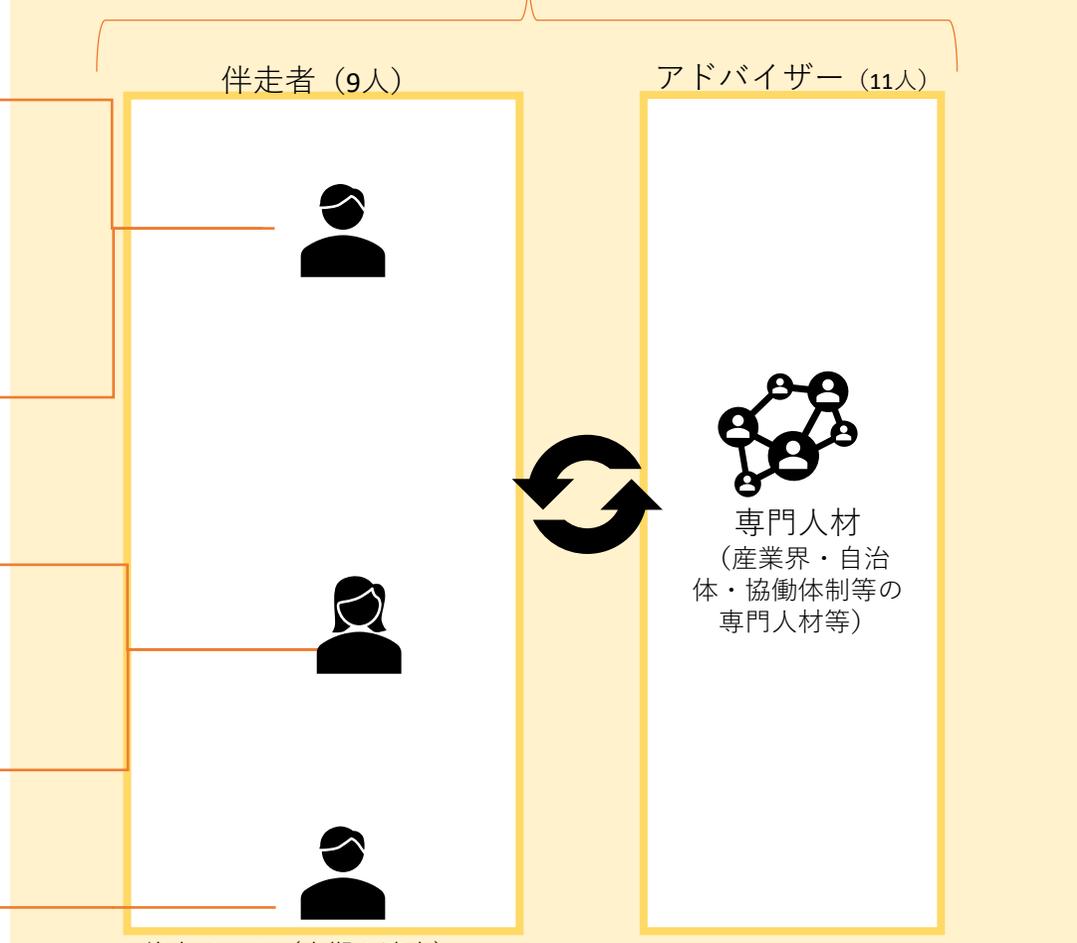


2022年度 伴走支援の体制

マイスターハイスクール
(高校・設置者・産業界・自治体等)



事業企画評価
会議委員



- ・ 伴走チーム (定期 & 適宜)
- ・ MH事業推進委員会等にも参加

伴走者経由でコアチームを支援

伴走支援の役割と範囲について

プロジェクトステートメント

目的

1. 10～20年後の地域産業を牽引する専門人材の育成
2. 学校と産業界が「これからの地域産業と人材」に当事者意識を持ち、協働できる仕組づくり
3. 専門高校を核とした地域づくりの全国への告知、活動のきっかけづくり

スコープ

学校現場を中心に支援、目的達成に影響力を持つステークホルダーへ柔軟に働きかけ

活動方針

1. 進捗状況やリソースに合わせ、計画性よりも実効性を重視し柔軟に進めていくこと
2. 生徒が主人公であることを念頭において、支援・助言をしていくこと
3. 産業界の関わり易さを担保しつつ、未来を見据え、意見のぶつかり合いを恐れない

伴走者の稼働条件

- 想定工数 : 年間80時間（事務局は含まず）
- 出張回数 : 年間3回を想定
- その他 : 個別にアドバイザーの支援も可能

伴走者の心構え

伴走者が指定校を中心に伴走する際の心構えをまとめて共有しています。

伴走の目的 (WHY)



- 10～20年後の地域産業を牽引する専門人材の育成にむけて、学校と産業界が相互に当事者意識を持ち、協働できる仕組づくりを支援すること。
- そのために学校現場を中心に、事業推進に資する「時間軸」や「方向性」に関する働きかけを行う。

伴走の姿勢 (HOW)



関係性を築くこと

問題を浮き彫りにして、解決策を検討するためのプロセスに関与していく



実効性を重視

伴走対象先の進捗やリソース状況に合わせ、計画性よりも実効性を重視し柔軟に進めていく

伴走活動 (WHAT)



校内体制



ビジョンと活動の一貫性



ステークホルダーの関係性



事業の継続性

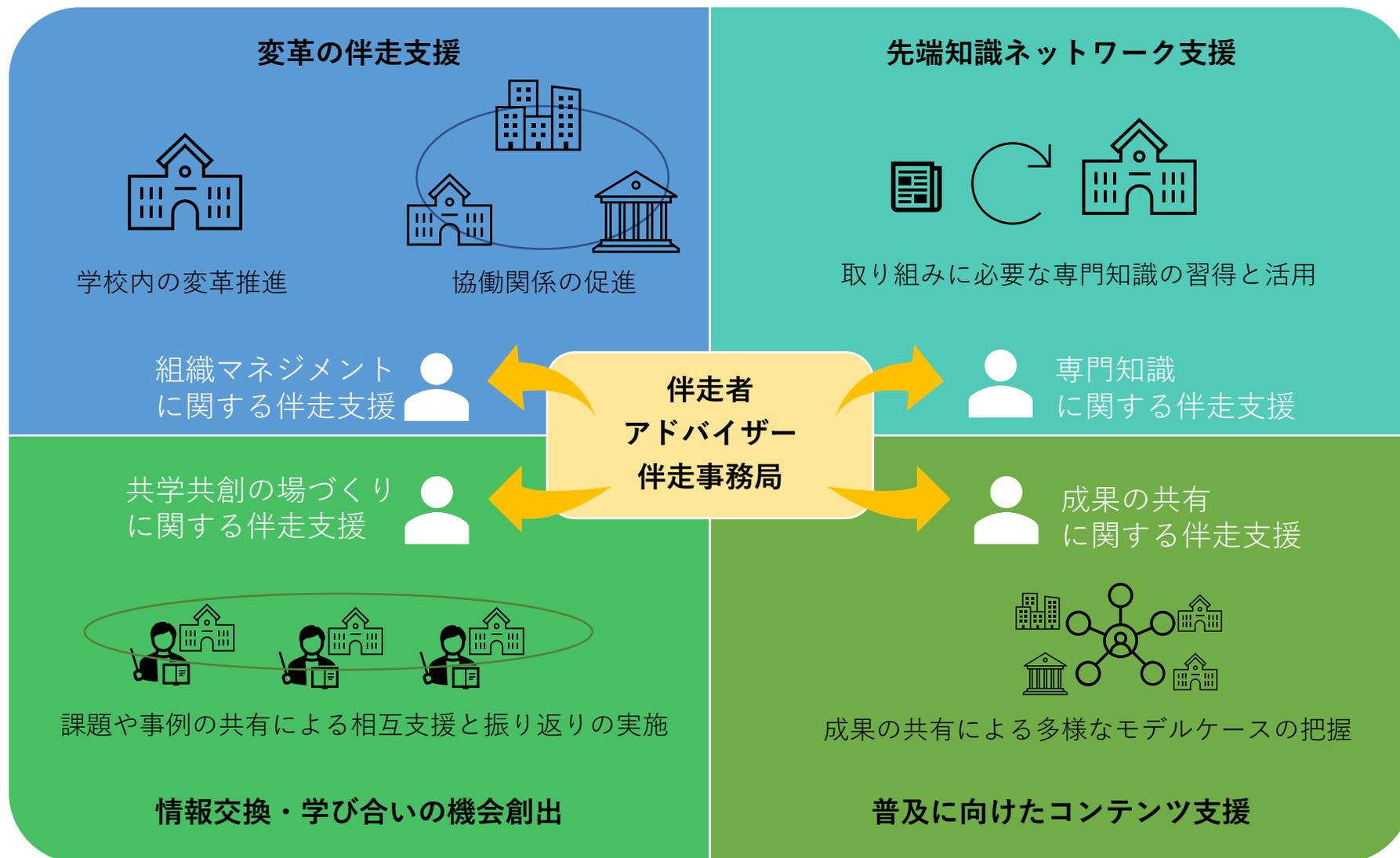


波及・普及



伴走支援の全体像

4つの観点から見た伴走支援の内容と成果を全体像としてまとめています。



変革の伴走支援

変革の伴走支援



学校内の変革推進



協働関係の促進

組織マネジメント
に関する伴走支援



伴走者
アドバイザー
伴走事務局

共学共創の場づくり
に関する伴走支援



課題や事例の共有による相互支援と振り返りの実施

情報交換・学び合いの機会創出

先端知識ネットワーク支援



取り組みに必要な専門知識の習得と活用



専門知識
に関する伴走支援



成果の共有
に関する伴走支援



成果の共有による多様なモデルケースの把握

普及に向けたコンテンツ支援

変革の伴走支援 | 各指定校の持つ課題への伴走支援状況

令和4年度の各指定校への伴走支援内容の一覧は以下の通り

学校名	事業推進に対する支援	ビジョン共有、協業体制の進化、事業の継続性	モデル化、その他地域への展開	専門高校のブランディング
北海道静内農業高等学校		○		○
福島県立小高産業技術高等学校	○	○		○
新潟県立海洋高等学校	○	○		○
福井県立若狭高等学校	○	○		○
福井県立坂井高等学校	○	○		○
山梨県立農林高等学校	○	○		○
滋賀県立彦根工業高等学校	○	○		○
岡山県立真庭高等学校	○	○		
広島県立庄原実業高等学校	○	○		○
大分県立大分東高等学校	○	○	○	○
大分県立久住高原農業高等学校	○	○	○	○
宮崎県立延岡工業高等学校	○	○	○	○
熊本県立八代工業高等学校	○	○	○	○
北海道厚岸翔洋高等学校	○	○		
埼玉県立大宮工業高等学校	○	○		
静岡県立浜松城北工業高等学校	○	○		

変革の伴走支援 | 中間成果発表会を起点とした体験デザイン

中間成果発表会での情報収集や学びを実際の事業活動に生かせるようにするため
事前・当日・事後の体験をデザインし、各種ツールを準備・提供

体験デザインのためのジャーニーマップ

イベント	中間成果発表前			成果発表会 当日						中間成果発表会后		
	申し込み	出張準備	移動	会場入り	発表会開始	発表	分科会スタート	グループワーク	終了	移動	学校内報告	管理機関への共有
参加者行動	参加者の決定 分科会の選定	発表資料の準備	参加メンバーで出張、宿泊	開場へ移動、受付	メインホールで基調講演	グループに分かれて成果発表	分科会の部屋に移動	分科会メンバーでディスカッション	成果発表会終了	参加メンバーで帰路	管理職や教職員へ報告、共有	参加していない管理機関への情報共有
感情・心理	誰が行くのか、どんな基準で選定するのか。出張旅費もそれなりにかかるし・・・	発表資料をようやく準備し終えた。。。だれが発表するのか。出張期間中の引継ぎもしなければ・・・	さて東京へ出張。メンバーと一緒に往くのは楽しい。前泊だから食事でも一緒にとるか・・・	おお、結構多くの人が集まっている。これは発表は緊張しそうだ・・・文科省もいるし	いよいよ始まった。せっかくだから楽しんで、得るものを多く持って帰ろう	各校の発表も興味深いし参考になる。他のグループはどんな感じだろうか	あとはこの分科会を終えれば今日は終わりだ。ちょっと疲れてきたな。。。	いろいろな学校の事情が分かってよけれど、愚痴は聞いてもしょうがないな・・・	様々な取り組み内容を知れて勉強になったし、参考にできそうだ。でも実現できるか・・・	やっと終わった、、、長かったな、疲れた。明日からまた現場か。仕事溜まっているな・・・	現場に戻ると、報告資料をまとめる時間もないし、口頭で説明しよう	県教委以外の管理機関には事業推進・運営委員会で報告すればよいか
												
↓ こうした	分科会での情報収集や議論を次年度計画のインプットとするために誰が行くのがよいか。	他の学校の発表資料にも目を通し、気になる学校をピックアップ	せっかくだから普段離さないような話題やテーマについても話してみたら、意外な発見があった	これだけの人が集まっているなら、いろいろと上方交換する良い機会だ。管理機関同士も知り合えるといいね	さて、今日一日、どんな風に過ごそうか。大まかなスケジュールを組み立てる	少しでも多くの情報を持って帰りたい	ここは結構貴重な情報源だ、もうちょい頑張ろう！	自分の学校・地域に具体的に役立つようなこと、反映できそうなことを見つけた	この熱量をどうしたら参加していないメンバーに伝えられるか。何か変えていきたい	うちの学校・地域にとって何が得られたのか、これらどうしたいのかを話したい	素早く報告内容がまとめられたので、校内の皆さんにもちゃんと共有しよう	校内で共有した報告書をうまく活用して、他の管理機関にも問題提起したい
体験	発表会での人脈と分科会の内容は、自分たちにとって貴重な情報源となりそう	他の学校の資料がオンライン上にまとまり、いつでも閲覧できるし、課題別に分類されているから皆でチェックできそう	発表会の準備という名目で、メンバー間の個人的な思いや考えを聞くことができ、他の学校の参加者にも聞いてみたい	学校、企業、自治体など所属組織が一目でわかり、ちょっと気になる人には声をかけてみよう	当日のスケジュール表を見て、一日をイメージしてみよう	グループの中で連絡先の交換をしたので、あとでいろいろと気になる点を質問してみよう	眠気覚ましにコーヒーも飲んだし、話題提供の内容も面白そう、もうちょい頑張ろう	なるほど、その事例ややり方を、帰ってからあの人に話せば少し状況を打開できそうだな	他の学校に発表・共有することは一部、ここで知っていた内容を自身の学校と地域に共有することも発表会の一部というのはその通りだね	相互に当日のメモを交換してみたら、いろいろと振り返りになるかもしれない	報告資料の作成を伴走者に手伝ってもらったら非常に楽だった。これはありがたい	分科会ごとの事後フォロー勉強会が開催され、関係する管理機関にも参加してもらったのでうまく情報が共有できた
タッチポイント	①文科省からの連絡文書 ②事務局からの連絡 ③伴走者からの情報提供	①事務局の情報共有ツール ②伴走者のフォロー	①事務局からの分科会に関する準備・事前課題	①当日の配布資料、名札	①当日の配布資料	①グループの部屋 ②伴走者	①分科会の部屋	①分科会のディスカッションの進め方、アウトプット	①閉会式 ②アンケート ③配布資料	①当日配布資料	①伴走者とのミーティング	①分科会 事後勉強会
施策	●分科会の詳細情報の提供 ●管理機関を巻き込んだ事前勉強会の開催など事前期待値を上げる	●指定校の資料をタグ付けした上で、オンライン上で閲覧できるようにする	●分科会の事前課題を提示、参加者間で擦合せが必要な要素を盛り込んだもの	●名札に、学校・地域、所属組織（学校、自治体、企業で色分け）、参加する分科会を記載 ●参加者名簿を配布	●当日のタイムテーブル	●名刺交換の時間を設けられないか ●事前に誰と誰を引き合わせると良いのかをリスト化して、手分けして紹介していく	●コーヒーのケータリング ●分科会の部屋の雰囲気、待ち時間に話題提供のダイジェストを動画で再生	●発表会後の地域での活動も発表会のスコープであることのメッセージ	●当日のメモが記載できるようにしており、問に沿ってメモを書いているような設計になっている ●参加者同士でメモをシェアすることをお勧め	●伴走者がヒアリングして報告書を仕上げていく ●報告書のひな形は事務局にて用意	●管理機関にも参加してもらった勉強会の開催	

変革の伴走支援 | 事後報告用フォーマットの作成・提供

中間成果発表会での評価やフィードバック、分科会でのエッセンスを発表会に参加していない教員、管理機関にも共有できるように事後報告フォーマットを準備

マスター・ハイスクール事業 2022年度中間成果発表会 報告資料		報告者
<p>開催概要</p> <p>日時 2022年11月7日 場所 池田産業振興センター 参加人数 現地参加人数 117名 オンライン人数 約100名 参加者</p>		<p>分科会の概要</p> <p>【持続可能な協働体制作り】</p> <p>■目的 マスター・ハイスクール卒業後も本取り組みを継続していくための協働体制を構築するためのエッセンスとヒントを学ぶ</p> <p>■議題提供 熊本県立八代工業高校 富松CEO</p> <p>■テーマ ・関係者を巻き込む（教委/地域産業界/市町村/OB会） ・卒業運営に必要な資源を算出、資金を調達する ・持続的に運用するための仕組み・座組を構築する</p> <p>■総評 4つのグループに分かれてディスカッション ①財源・いくら必要なのかについては最低でも300～500万円と試算できる（人件費込み）・基礎自治体にお金を出してもらっても財源には制限がある・教育だけでなく、何かしら一緒にやることで他から財源を確保できる。公共工事一つ減らすなど、他の卒業を減らすというアイデアも・マスターを認証制度に切り替えていくことで、質の管理と健全な競争が保たれたい ②目指す人材像の共有・高校卒業段階でどこまで目指すのかを共有することが出発点・この部分の組織を蓄えたいと最終的に成長を評価できない・地域の人材ニーズにどのようにマッチさせるのか、例として山梨県立農林高校の事例（ワイン産業を活性化させていく） ③協働体制づくり・つくっていくプロセスとしてバランスな状態から役割を明確化する・その上で協働の価値を可視化していく・参加者にとってのメリットも明確にすることが大切 ④外部人材の起用とメリット・組織内の浸透率、どれだけ教職員が同じ景色を見ているかがまずは大切・その上で、関わってくれる人の数をどう増やすのか・そのためにはエビデンスと価値の見える化をしていく必要がある</p>
<p>発表内容</p>	<p>【学校内卒業マネジメント】</p> <p>■目的 マスター・ハイスクール卒業を学校内で一体化して進めるためのエッセンスとヒントを学ぶ</p> <p>■議題提供 熊本県立高松高校 北村校長</p> <p>■テーマ ・計画を遂行するための体制作り・役割の明確化 ・全体に波及させるためのビジョンの共有 ・直線的に響かない教職員の巻き込み、自分ゴト化 ・教員の負担軽減（外部の活用、業務削減）</p> <p>■総評 <課題> 学校側の準備、負担感なく協働体制をとる方法、教員の負担感を取り除くには、教員が主体的に行動するために、管理職はどのようにアプローチすればよいのか。マスター・ハイスクール卒業の理論の共有が不十分のため、どんな人材を育てたいか再確認し直すことが必要なのは、 <経緯策> 各校によって経緯は異なるが、共通して印象的だったこと2点。 ①全部つながっていたということ</p>	
<p>講評内容</p>		
<p>所感</p>		

変革の伴走支援 | 事前アンケートの要望に沿った分科会開催

中間成果発表会にて事前アンケートで要望の多かったテーマの分科会を開催

【持続可能な協働体制づくりに向けて】

<アドバイザー>

一般社団法人まなびのみなど代表理事
／大崎海星高校魅力化推進コーディネーター 取釜宏行さん
株式会社あしたの寺子屋代表取締役社長 嶋本勇介さん
Idea partners 代表 山本一輝さん

<話題提供>

熊本県立八代工業高等学校 富松CEO

<目的>

マイスター・ハイスクール事業終了後も本取り組みを持続していくための協働体制を構築するためのエッセンスとヒント

【産業界と連携した教育課程の構築と実施】

<アドバイザー>

国立大学法人福島大学 経済経営学類 岩井秀樹教授
宮崎県教育委員会 上水 陽一さん
一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事 岩本悠さん
文科省教科調査官 内藤 敬さん

<話題提供>

山梨県立農林高等学校 渡邊先生

<目的>

マイスター・ハイスクール事業のゴールの一つである産業界と連携した教育課程の刷新についてのイメージを共有する

【学校内事業マネジメント】

<アドバイザー>

国立大学法人島根大学 教職大学院 教育学研究科 中村怜詞准教授
(株) Prima Pinguino 羽鳥圭さん

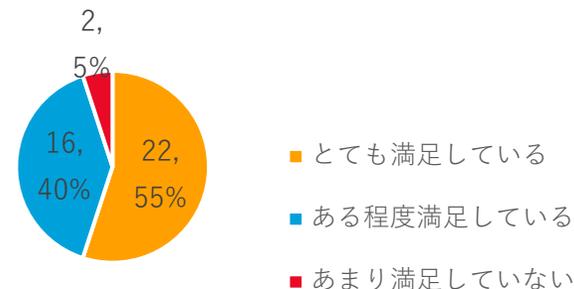
<話題提供>

福井県立若狭高等学校 北村校長

<目的>

マイスター・ハイスクール事業を学校内で一体化して進めるためのエッセンスとヒント

分科会の満足度



変革の伴走支援 | 分科会フォローアップのための事後勉強会

持続可能な協働体制づくりに向けて : 自走化に向けてお金をどう調達するのか 参加者：14名

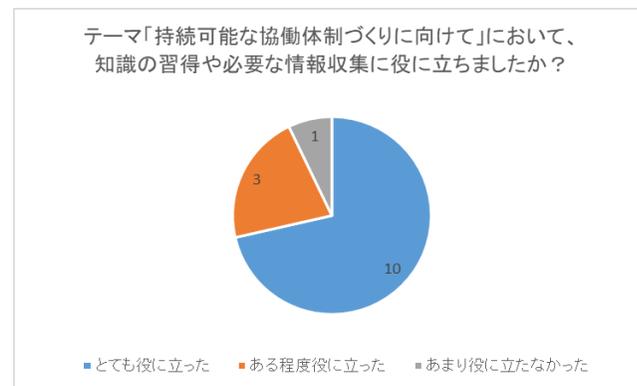
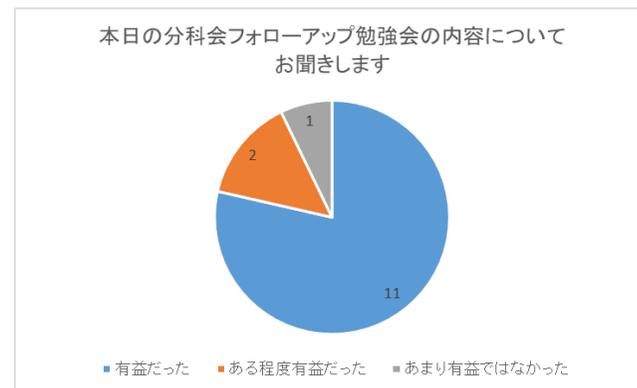
趣旨

- 前回の分科会では、「財源」「目指す人材像の共有」「協働体制作りのプロセス」「外部人材の起用とメリット」の4つの視点に分かれてディスカッション
- 今回の勉強会では、R3年度指定校にとっては来年度が最終年度となり、自走化に向けた最大のポイントとなる財源についてテーマとして取り上げ
- さまざまな資金調達と活用方法を学び、自分たちにとって実現可能性の高い手段や実現方法を検討し、自走化に向けたインプットの間とする



進め方

- ① 前回の分科会の振り返りと趣旨説明
- ② 事例紹介（行政）：神山つなぐ公社 梅田さま
- ③ 事例紹介（企業）：株式会社ジョイン武田さま
- ④ 事例紹介（学校）
- ⑤ 事例Q&A
- ⑥ グループディスカッション
- ⑦ 閉会



変革の伴走支援 | 分科会フォローアップのための事後勉強会

産業界と連携した教育課程の構築と実施：公開困りごと相談会 参加者：21名

趣旨

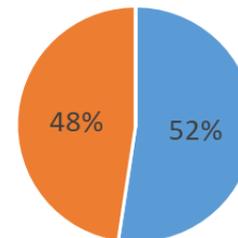
- 前回の分科会では、課題を感じる分野として「カリキュラムの設定」「教員の関わり」「企業との関わり」「ビジョン・理念の共有」「生徒のキャリアの実現」の5つのテーマに分かれてディスカッション
- 各指定校における教育課程の進捗状況と課題感も同一ではないため、相互の情報交換では課題解決の場になりにくいことを想定
- 今回の勉強会では、各校が今年度の振り返り、来年1年のゴールと課題が認識でき、スタートダッシュできるよう各指定校が現状抱えている課題を乗り越えていくプロセスに焦点を当てた勉強会とする



進め方

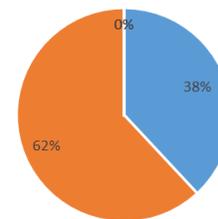
- ① 前回の分科会の振り返りと趣旨説明
- ② 講演：企画評価会議委員 布川先生
- ③ 相談：彦根工業高校 友田先生
- ④ 相談：大宮工業高校 野辺教頭先生
- ⑤ 個人ワーク
- ⑥ 閉会

本日のフォローアップ分科会の内容について



■ 有益だった ■ ある程度有益だった
■ あまり有益ではなかった ■ 有益ではなかった

テーマ「産業界と連携した教育課程の構築と実施」について知識の習得や必要な情報収集に役に立ちましたか



■ とても役に立った ■ ある程度役に立った
■ あまり役に立たなかった ■ 役に立たなかった

伴走支援に対する評価

2022年度の伴走支援に対する指定校・都道府県教育委員会からのフィードバック

助言・アドバイス

- CEOの力に加え、伴走支援。寄り添いながら刺激をもらったことが大きかった
- 全国の取り組みとして、どうやって行くべきかという視点（時代の課題であること）が持てた
- PR企画についても専門家の力を借りながらできた
- キャリアにつなげていく意識についてのご意見をいただいた。組み込めていなかった視点でアドバイスいただいた
- 3年間後の継続の部分で、他県の取り組み事例などアドバイスをいただき参考になった
- 課題や困りごとに対して真摯にアドバイスをいただき、感謝
- 事業計画書の作成のためのインプットをもらったり、3月の中間成果発表会にも参加してもらった。
- PR動画作成についての助言。勉強会に関する場を設けてもらった。
- CEOからの相談に適切に対処してもらい、ループリック作成にも助言もらえて助かっている。
- 地域産業との在り方。学校への助言も助かっている
- 常々、学校へ寄り添った支援をしていただいた
- 事業をどう発展させていくかというところで、貢献していただいた
- いろんな視点で示唆をいただけてきたことが大きい
- 先生方のスキルアップについてもアドバイスをもらったことがありがたかった
- 伴走者にはいつも親身になって考えてもらっている
- 金銭面含め、人材育成の面でも職員に対しての指導を伴走者にしていただいた
- 教員向けの研修。教員の意識改革に乗り出してもらった。ご支援に感謝している
- 研修は非常にインパクトがあった。その後は、MHSの授業に対してもずいぶん変わった印象を受ける
- ループリックについての個別勉強会がとても役に立った。食料科学科でもループリック活用することになり次につながった
- 自身で作成したループリックをアドバイザーに評価・指摘してもらえたのも良かった。

伴走支援に対する評価

事業推進

- この伴走システムは、学校側としてはとても心強かったと感じる
- 伴走支援があったことで、とても視野が広がった
- 伴走支援があり、事業がしっかりと潤滑にまわっているという印象
- 伴走者のおかげで事業を進められている、定期的な月イチのミーティングには感謝
- 随時、伴走者から進捗確認があったのが良かった
- なかなか手が回らなかった広報の支援（ポスター、動画）も良かった
- 会議などの場を設定してもらった点が良かった
- 学校に的確な支援ができない中、伴走支援は助かる
- 伴走支援などの取り組みから、自分たちを客観的にみることができた
- 伴走者には定期的に定例会を実施していただいて、進捗管理をしていただけるのもありがたい
- 3 DCADの人材検討なども細目に連絡をもらいとても助かった
- 当初は文科省とどのように連絡を切り分けたらよいかなどのとまどいがあったが、その後ストレスなく進めることができた

仕組みに対する評価

- 伴走支援は非常に良いシステム。学校の困ったなという部分に手が届くようなシステムと感じた
- 伴走者のフォローアップが充実していた
- 企画評価会議の皆さまに視察に来ていただけたことは良かった

情報共有・横のつながり

- 中間成果発表会にて、各校の情報の共有ができたことがありがたかった
- 横のつながり（ループリック）の機会を設けてもらえたことが良かった
- 他校のCEOともつながる、やり取りすることができた

伴走支援に対する評価

情報・事例提供

- 他校からの情報共有、進むべき方向への共通認識が持てたことが心強かった
- 分野ごとに（マネジメント、財源のことなど）お話できて良かった
- 事例の紹介、利用できるお金などの事例をいただいた
- コンソーシアムの概念について教えていただいた
- 問題点・課題・注視すべき点など、他校の事例紹介などのアドバイスは非常に良かった
- 他の学校での取り組み事例も知ることができた
- 今年度につながるような、様々な学校の状況を共有いただいた
- どうやって予算を確保して継続するか、全国の先進的な取り組みなど他校の事例が今後の進め方に参考になった
- 勉強会などの企画などもありがたく良い機会になった
- 勉強会について時間的に合わない部分が多かったが、ぜひ続けてもらいたい

関係性改善

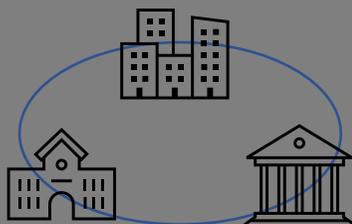
- 2年目：PR活動を通して他の科、生徒とも連携することができた。他の工業高校、地域へも事業が認知されたように思う
- 文科省との繋ぎ、本質についてディスカッションができたことが大きかった
- CEOと先生とのコミュニケーションの場を設けていただいた
- 伴走者の活動に心から感謝している。あまり対立はせず、粘り強い方で助かっている。
- PR動画について、とてもお世話になった。全8コースをまとめてもらい、校内が一つになる機会となった
- 各コースの代表者がそれぞれの活動を知る良い機会になった
- 動画について大変お世話になった。皆さんに喜んでもらえるのがとても嬉しい
- Yahoo!記事の取材によって、生徒の気持ちが変わった印象
- 教員側で生徒の成長が見て取れたこと。
- 文科省との協議の場を設けてもらいさまざまな方法論、オプションの検討ができたこと外部の方との関りのきっかけをつくっていただいたことが良かった

先端知識ネットワーク支援

変革の伴走支援



学校内の変革推進



協働関係の促進

組織マネジメント
に関する伴走支援



共学共創の場づくり
に関する伴走支援



課題や事例の共有による相互支援と振り返りの実施

情報交換・学び合いの機会創出

先端知識ネットワーク支援



取り組みに必要な専門知識の習得と活用

伴走者
アドバイザー
伴走事務局

専門知識
に関する伴走支援



成果の共有
に関する伴走支援



成果の共有による多様なモデルケースの把握

普及に向けたコンテンツ支援

先端知識ネットワーク支援 | アドバイザー勉強会

第4回「イノベーションと人材育成編」

講師：岩井 秀樹さん 国立大学法人福島大学 経済経営学類 教授

第5回「高校魅力化推進編」

講師：藤岡 慎二さん 産業能率大学経営学部教授 総務省地域力創造アドバイザー

第6回「SDGs編」

講師：平林 泰直さん 株式会社ソフィアサーキュラーデザイン 代表取締役

第7回「生徒の主体性」

講師：上水 陽一さん 宮崎県教育委員会
福井県立若狭高等学校 毛利先生

第8回「高校改革における教育委員会の役割」

講師：岩本 悠さん 一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム 代表理事
島根県教育委員会 長谷川さん

第9回「学校内の組織開発」

講師：中村 怜詩さん 国立大学法人島根大学 教職大学院 教育学研究科 准教授

第10回「地域との協働体制づくり」

講師：取釜宏行さん 一般社団法人まなびのみなと代表理事

先端知識ネットワークの支援 | 勉強会

開催内容と成果は以下の通り

イノベーションと人材育成

高校魅力化推進

SDGs

生徒の主体性の引き出し方

高校改革における教育委員会の役割

学校内の組織開発

地域との協働体制づくり

第四回アドバイザー勉強会 「イノベーションと人材育成」

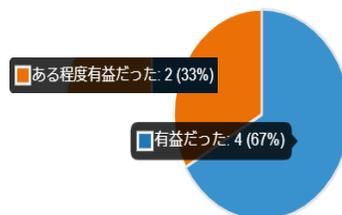
日時 4月22日

講師 岩井先生

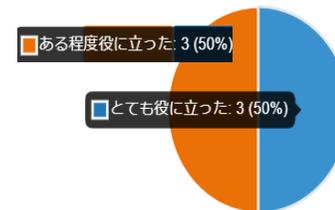
参加高校 6校 16名

アンケート結果

本日の勉強会の内容について
お聞きします



知識の習得や必要な
情報収集において役に立ちましたか



- デザイン思考について（多様性、発散、収束）
- イノベーションの基本的な考え方と実践事例及び今後のプロジェクト学習の展開
- 本テーマに基づく背景から基礎的な知識まで丁寧にご紹介いただき、理解が深まりました。高校（特にMHS対象である専門科高校）でどう取り入れていけると良いか、具体的なイメージに繋がるお話ももう少し聞きたかったです。
- 社会イノベーションを進めるに当たって産官学民が協働で実際に物事を進めることのできる仕組みそれに必要な要素などを理解できた。
- 現在の社会状況は新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻など、予測が困難なことが起きています。その中で、生徒たちにどのような力をつけるかを考えさせられました。デザイン思考などについてもっと自分も勉強していかないと感じました。イノベーションが起こせるような人材の育成が大切で、そういう取り組みが求められますが、本校の教育の現場は画一的な生徒を育てるところから脱却できないように思います。新教育課程の導入により生徒に主体的考える授業やMH事業により色んな経験を積んでくれることを期待しています。
- イノベーションを3つのプロセス（発案・実装・普及）で考える点
イノベーションを生み出すための環境の大切さ、成長ができない企業と経営におけるの現状課題、デザイン思考による長期的な視点

先端知識ネットワークの支援 | 勉強会

開催内容と成果は以下の通り

イノベーションと人材育成

高校魅力化推進

SDGs

生徒の主体性の引き出し方

高校改革における教育委員会の役割

学校内の組織開発

地域との協働体制づくり

第五回アドバイザー勉強会 「高校魅力化推進」

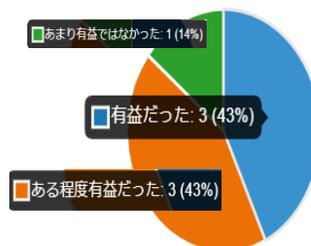
日時 5月19日

講師 藤岡さん

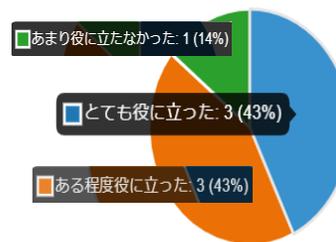
参加高校 5校 + 県教委3カ所 21名

アンケート結果

本日の勉強会の内容について
お聞きます



知識の習得や必要な
情報収集において役に立ちましたか



- 国内だけではなく国外も含めた事例紹介がとても参考になりました。
- 説明のあった事例やデータはある程度知っていたので。
- ふるさと教育
小中高において成功体験をできるような取組をしていきたい
- クリエイティブクラスの定義、現状、育む意義、戻ってくるイメージづくり紹介が大変参考となりました。
- クリエイティブ・クラスのみなさんとの連携をしっかり行い、生徒と結ぶことがやはり大切と実感した。総合的な探究の時間で起業家育成を実践されている事例には大変興味を持った。
- 知の探索や深化が日本では決定的に行われていないことによってイノベーションが生まれにくいというのはよく理解できました。そのための余裕が必要です。
- 経済など日本や世界の状況をもとに、人材育成の取り組みについての方向性

先端知識ネットワークの支援 | 勉強会

開催内容と成果は以下の通り

イノベーションと人材育成

高校魅力化推進

SDG s

生徒の主体性の引き出し方

高校改革における教育委員会の役割

学校内の組織開発

地域との協働体制づくり

第六回アドバイザー勉強会 「SDG s」

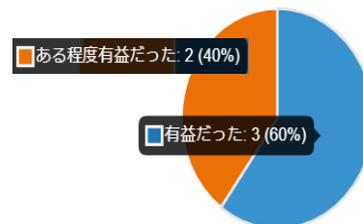
日時 6月7日

講師 平林さん

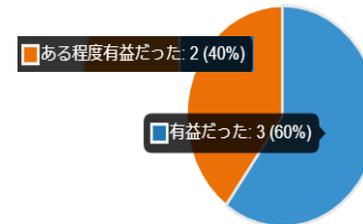
参加高校 6校 12名

アンケート結果

本日の勉強会の内容について
お聞きします



知識の習得や必要な
情報収集において役に立ちましたか



- 全体像の理解が進んだ
- 今まで、難しく考えていましたが、価値のものさしとして使えばいいんだ！と納得しました。SDGsにこだわらず正しい道を選んでいきたいと思えます。
- 企業のある一定数は、これまでの企業理念や経営戦略を変えるために随分と注力していることがよく分かった。ただし、世界の潮流から立ち遅れ気味な日本の中小企業の多くは今後の展望を見込めるのかと不安にもなった。
- SDGsなどの本質を考えるにあたり、WHYの視点を持つことは、イノベーションを起こすなど新しいことに取り組む時に、とても大切なコンセプトになることを考えさせられた。ありがとうございました。
- SDGsというテーマについて、ニュースやネットをよく見るものの、実際「SDGsについて説明してください」と聞かれたときに答えられない状態だったのが、今回の勉強会を聴講して自分の言葉でかみ砕けるようになったと思います。

先端知識ネットワークの支援 | 勉強会

開催内容と成果は以下の通り

イノベーションと人材育成

高校魅力化推進

SDGs

生徒の主体性の引き出し方

高校改革における教育委員会の役割

学校内の組織開発

地域との協働体制づくり

第七回アドバイザー勉強会 「生徒の主体性の引き出し方」

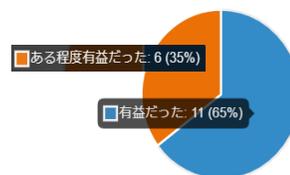
日時 7月21日

講師 上水先生

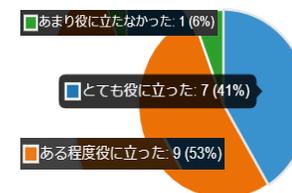
参加高校 10校 + 県教委2カ所 33名

アンケート結果 1

本日の勉強会の内容について
お聞きします



知識の習得や必要な
情報収集において役に立ちましたか



- 若狭高校の取組は参考になりました。
- 主体性に火をともしることができるかどうか大切に気づきました
- 生徒も大人も同様で、主体性を持って行動するためには何事もまず楽しむことが必要であると感じた。
- 若狭高校の取り組みで、生徒に寄り添った運営がなされている点
- 主体性ってなんなの？というところから、掘り起こし、他校の先進取り組みも知ることができて、とても勉強になりました。「楽しい」と感じるということが何よりも主体性を生むというところが特に印象的でした。
- 勉強会で主体性の引き出し方が与えらると考えていた時点で主体的ではなかったように感じます。同じように生徒が与えられることに慣れてしまっていると痛感しました。主語をどこに持ってくるかで新たに考えを出したいと思います。
- 傍聴のみでしたが、オンラインであっても作業するお時間とっていただき、ボードの活用等とても先進的だと思いました。（聞いているだけでなく、参加者が手を動かす時間を作ることはとても有益だなと思いました。）
- 即効性のある方法がないことが分かった。特に興味を抱かせるしかけを学業という制限のなかでつくり出せるのかイメージがわからない。

先端知識ネットワークの支援 | 勉強会

開催内容と成果は以下の通り

イノベーションと人材育成

高校魅力化推進

SDG s

生徒の主体性の引き出し方

高校改革における教育委員会の役割

学校内の組織開発

地域との協働体制づくり

第七回アドバイザー勉強会 「生徒の主体性の引き出し方」

日時 7月21日

講師 上水先生

参加高校 10校 + 県教委2カ所 33名

アンケート結果 2

- 自主性、主体性とはなにかとあらためて考えることから始まるんですね。
- 毛利先生の話は生徒指導部、進路指導部の名称変更、生徒主導のスクールポリシー作成などすべてが大いに刺激を受けました。上水さんの、主体性とは？も、考えさせられる貴重な話でした。
- 主体性を引き出すための組織作りの点が特に印象に残りました。
生徒の主体性を引き出すためには、やはり教員組織としての主体性の必要性を感じました
本日はありがとうございました。
- 生徒は主体性をもともと持っている。それを信じて、主体性を出さなければならない場面をいかに意図的に設定するかということが理解できた。また、“楽しい”実習をできるだけたくさん経験させるというご意見も、経験的に納得することができた。
- 途中からの参加であったが、若狭高校の運営推進委員会への生徒参加にはびっくりした。
現時点で、本校では大人の世界でこの事業の運営等は考えている。そのテーブルの上で生徒がどのように力量をつけたり、活躍するのを見ているような状況である。
主体性について根本から考えさせられた研修となった。
そんなことは生徒には無理だ、そんな取り組みはコースの専門性から反対されるなど いろいろとできない理由をつけて口実にしてきたように思えてならない。
- 生徒の主体性を解放するには、管理職の度量も必要です。高校生にも、彼らの心に火のつくようなことを任せれば、主体性をもってやるはずです。この研修は先生にぜひ聞いて頂きたかったです。研修ありがとうございました。
- 今回の勉強会に参加して、そもそも主体性が必要なのかという事から考え直してみました
主体性の引き出し方は多様であり、マイスターハイスクールの運営に生徒を参加させるなど、固定的な考え方をできるだけ壊し、あたらしいものを取り入れる姿勢が必要であると感じました。

先端知識ネットワークの支援 | 勉強会

開催内容と成果は以下の通り

イノベーションと人材育成

高校魅力化推進

SDG s

生徒の主体性の引き出し方

高校改革における教育委員会の役割

学校内の組織開発

地域との協働体制づくり

第八回アドバイザー勉強会 「高校改革における教育委員会の役割」

日時 8月22日

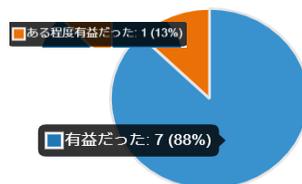
講師 岩本さん

参加高校 教育委員会8カ所 16名

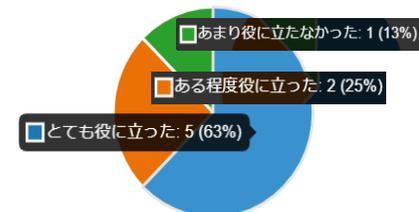


アンケート結果

本日の勉強会の内容について
お聞きします



知識の習得や必要な
情報収集において役に立ちましたか



- 私のグループは産業教育に関する事業が多く、高校改革については他のグループがメインとなります。しかし、指導主事として役割を果たす必要があることを再認識できた。また、島根県の実例は、とても参考になりました。
- 伴走の目的、手法が可視化されておりイメージできた。
- 学校の魅力化には、教育委員会の役割が大きいと再認識しました。最後に確認のあった、寄り添いと指導のバランスという視点でいうと、持続可能な関わり方が大切であると感じています。学校が地域の特徴や魅力に合わせた魅力ある学校になるためには、ある程度自立してもらう必要があり、人が変わっても持続していけること、が重要であると思います。
- 伴走体制の構築の大切さに気付かせていただきました。一斉一律的でなく、各校に寄り添いながら支援をしていくことは難しいと感じますが、その重要性を念頭に置いて、指導する立場ではあるけれども、どう寄り添って、どうバックアップしていけばよいのか勉強したいと思います。
- 県の施策とMH事業の取り組みがリンクしている場合は、組織的な動きが取れると思いますが、当県のように、県の施策は隣のラインの業務、各文科事業は関連する指導主事1名～2名の業務とセクト対応の場合は、大きなうねりを興しにくいと感じています。改めて当県（当課）の場合は、様々な業務推進体制の見直しだということに気が付きましたし、そのような中でもどのような動きをすれば島根県教育委員会さんのような組織になっていくのか、考えさせられました。ありがとうございました。
- 学校に対する教育委員会の「伴走」の在り方について、考え方が変わった。これまでは、いかに事業を自走させるかという考えで各校にアプローチを行ってきたが、行政との連携を深く持つことで、1つ1つの学校の方向性をさらに強く進められること、またその事例を知ることができた。

先端知識ネットワークの支援 | 勉強会

開催内容と成果は以下の通り

イノベーションと人材育成

高校魅力化推進

SDGs

生徒の主体性の引き出し方

高校改革における教育委員会の役割

学校内の組織開発

地域との協働体制づくり

第九回アドバイザー勉強会 「学校内の組織開発」

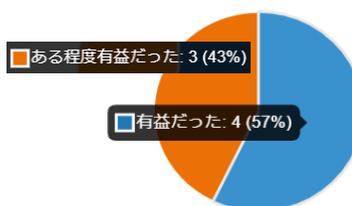
日時 9月21日

講師 中村先生

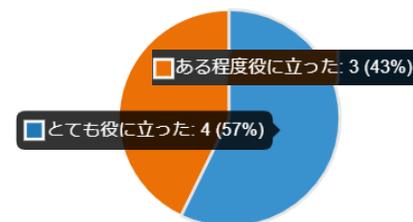
参加高校 7校 + 県教委2カ所 20名

アンケート結果

本日の勉強会の内容について
お聞きします



知識の習得や必要な
情報収集において役に立ちましたか



- 学校内の組織運営の具体的な手段を教示していただけのため
- 生徒対応で退席が多かったため、アーカイブ残していただけとありがたいです
- ミドルアップダウンマネジメントについて理解が深まった。校長のビジョンを理解し現場の教員と管理職をつなぐミドルリーダーの位置づけと役割を重視した組織運営の有効性について改めて理解することができた。管理職対現場の教員という構図は改善すべきものである。
- 言われていることが新鮮ではないのだが、再認識させられたということ。
- 学校の組織が民間とかなり違う点をもう一度考える機会になった
- 学校での極端な事例が聞けたのがよかったです。また、組織作りの基本は、企業でも学校でも変わらないということもよくわかりました。ですので、個々の学校風土の中での具体的なデザインがテーマですね。
- 健全性、効果性、協働性についてよく理解できた

先端知識ネットワークの支援 | 勉強会

開催内容と成果は以下の通り

イノベーションと人材育成

高校魅力化推進

SDG s

生徒の主体性の引き出し方

高校改革における教育委員会の役割

学校内の組織開発

地域との協働体制づくり

第十回アドバイザー勉強会 「地域との協働体制づくり」

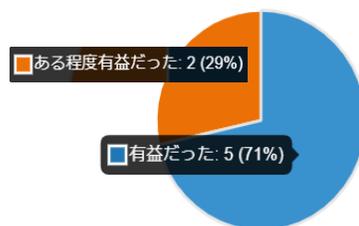
日時 10月28日

講師 取釜さん

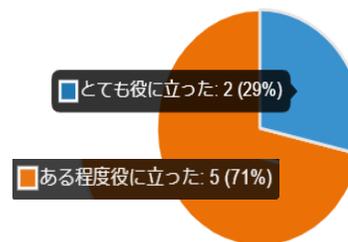
参加高校 7校 + 県教委4カ所 16名

アンケート結果

本日の勉強会の内容について
お聞きします



知識の習得や必要な
情報収集において役に立ちましたか



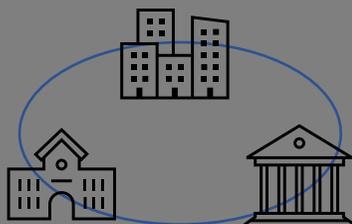
- 圧倒的熱量を持った人
- csとの連携
- 学校と地域の目線、持続可能な関係を構築するための資金
- 協働体を計画する考え方が分かった。学校長や地域の部長、課長クラスの方々に聞いていただきたい内容でした。
- 地域コンソーシアムを作って様々な課題を話し合っ解決策を見つけて取り組んでいく。今は、どちらかというやれる人だけがやるという他人本願型のイメージ強い。地域コンソーシアムを現状あるPTA、同窓会、産業界との協議会など、ひとつにまとめて行えないか検討が必要と思う。
- コンソーシアムの形成とその運用について、学校運営協議会について
- 企業経営や複数の協議会運営などの経験も手掛かりにマイスター・ハイスクールに取り組んできましたが、本日のお話で考え方の骨子はよかったのだと安心しました。体系的に整理してお話いただきましたので、ヒント満載でした。限られた時間でしたが、新しい地域での取り組みについていろいろと具体的な相談が出来る！と感じたことが一番収穫でした。

情報交換・学び合いの機会創出

変革の伴走支援



学校内の変革推進



協働関係の促進

組織マネジメント
に関する伴走支援



先端知識ネットワーク支援



取り組みに必要な専門知識の習得と活用



専門知識
に関する伴走支援

共学共創の場づくり
に関する伴走支援



課題や事例の共有による相互支援と振り返りの実施

情報交換・学び合いの機会創出

伴走者
アドバイザー
伴走事務局



成果の共有
に関する伴走支援

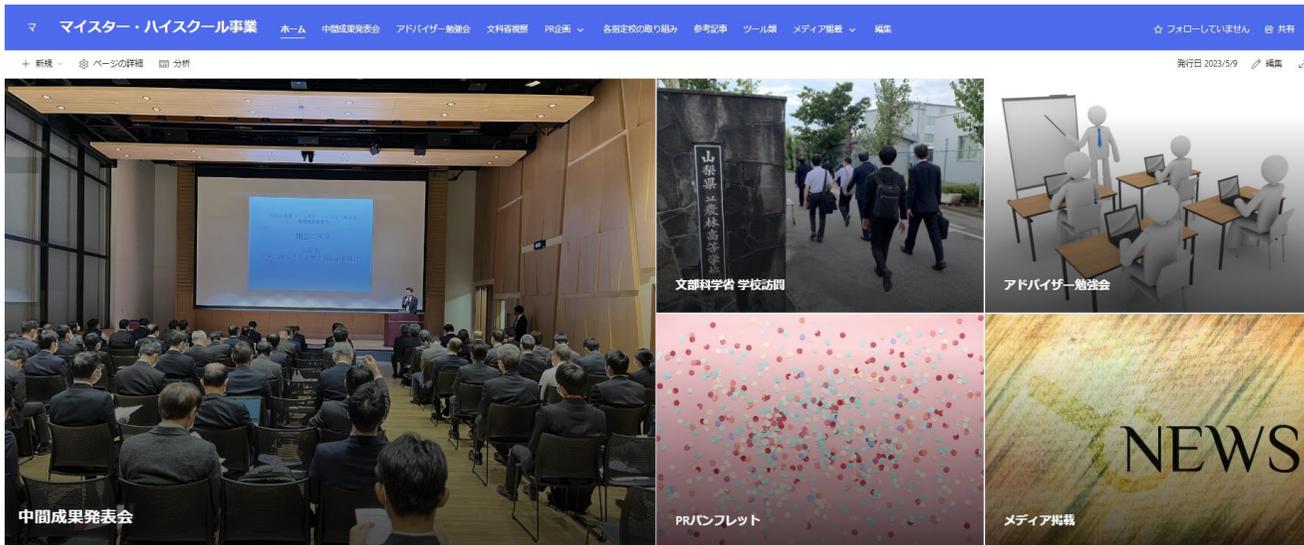


成果の共有による多様なモデルケースの把握

普及に向けたコンテンツ支援

ポータルサイトの運営

管理機関・指定校の関係者のみが閲覧できるポータルサイトを構築・運営
指定校の先進的な事例、勉強会の動画、成果発表会に関するレポート、伴走支援の取り組み、お知らせなど定期的な情報提供・共有を実践



ニュース

+ 追加

- 2021年度中間成果報告会**
オンライン形式で実施。ルームA～C、3つのグループに分けて発表。当日の様子アーカイブ動画へのリンク...
大橋久美 2022年12月13日 34回表示
- 2022年度中間成果発表会**
参集・オンラインのハイブリッド型で開催。計16校を4つの会場に分けて発表。午後からは各課題に別れ、分科会を実施しました...
大橋久美 2022年12月13日 30回表示

- 第4回勉強会「イノベーションと人材育成」**
講師：野村 秀徳さん 国立大学法人福島大学 経済経営学類 教授 当日資料 動画視聴URL https://vimeo.com/702801244 //パスワード...
大橋久美 2022年12月18日 7回表示
- 第5回勉強会「高校魅力化推進」**
講師：藤岡 慎二さん 産業能率大学 経営学部 教授 経路省地域力創造アドバイザー 当日資料 動画視聴URL https://vimeo.com/71190133
大橋久美 2022年12月18日 7回表示
- 第6回勉強会「SDGs」**
講師：平林 奈津さん 株式会社ソフィアセキュアデザイン代表取締役 動画視聴URL https://vimeo.com/71850014 //パスワード...
大橋久美 2022年12月18日 4回表示
- 第7回勉強会「生徒の主体性の引き出し方」**
講師：上水 隆一さん 岩崎通教育委員会 当日資料 動画視聴URL https://vimeo.com/732391015 //パスワード: benkyo アンケート結果...
大橋久美 2022年12月18日 1回表示

指定校同士の情報交換・共有

個別情報交換会

指定校同士を繋げ、情報交換ならびに相談の場づくり

- CEO同士の情報交換、特に1年目のCEOを2年目のCEOと引き合わせることで先行する指定校のノウハウを移転
- 共通課題をテーマに情報交換、ルーブリック評価などそれぞれの指定校のやり方や悩みを共有し、相互課題解決と学びを創出
- 指定校の個別課題に関して先行した活動をしている学校を引き合わせ、個別の課題解決につなげていく。

全体発表・共有

指定校が集まる場で、先進的な活動をする指定校から共有

- 分科会にて、協働体制・学校な事業マネジメント・教育課程の構築に関して先行している指定校から発表・共有
- 分科会フォローアップ勉強会にて、教育課程に関して課題感を持つ指定校から現状問題を共有
- アドバイザー勉強会にて、生徒の主体性など先行する指定校から事例を共有

各指定校の商品・取り組みの共有

各指定校の商品を中間成果発表会の会場で販売、
工業高校については各校の取り組みをポスターで展示

商品名	総数
新潟県立海洋高校	
最後の一滴50mL	12本
最後の一滴甘口50mL	12本
ごっつあんカレー（中辛）	40個
ごっつあん味噌（プレーン）	8個
うす焼きせんべい（最後の一滴味）	16個
大分東高校	
甘酒	5個
いちごジャム	5個
福井県立若狭高校	
若狭宇宙鯖缶	15個
寒ブナの煮付け缶	15個
ocean（プラ箸）	15個
北海道静内農業高校	
3種類1セット	15セット
・「うまみそ」	
・「なんばん黒みそ（マイルド）」	
・「なんばん黒みそ（激辛）」	
岡山県立真庭高校	
イチゴジャム（390g入）	10個

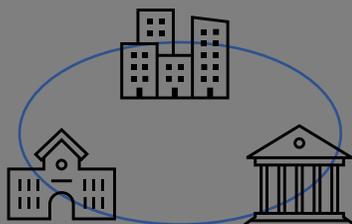


普及に向けたコンテンツ支援

変革の伴走支援



学校内の変革推進



協働関係の促進

組織マネジメント
に関する伴走支援



先端知識ネットワーク支援



取り組みに必要な専門知識の習得と活用

専門知識

に関する伴走支援



伴走者
アドバイザー
伴走事務局

共学共創の場づくり
に関する伴走支援



課題や事例の共有による相互支援と振り返りの実施

情報交換・学び合いの機会創出

成果の共有

に関する伴走支援



成果の共有による多様なモデルケースの把握

普及に向けたコンテンツ支援

変革の伴走支援 | MHS版高校魅力化ルーブリックの活用

指定校の事例を参考にして事業推進に必要な要諦を自己評価ツールとして現場に提供

No	カテゴリ	項目	1	2	3	4
1	学校経営	スクール・ポリシーの策定・見直し	スクール・ポリシーは策定・見直しされていない。もしくは、今までの学校目標等のまま、特に対話や改善もしていない。	スクール・ポリシーは管理職や学校内の一部のメンバーで、策定・見直しされている。	スクール・ポリシーは、学校内の教職員全体で、策定・見直しされている。	スクール・ポリシーは、教職員をはじめ生徒や学校外の関係者等が参画し、策定・見直しされている。
2	学校経営	スクール・ポリシーの内容・表現	スクール・ポリシーは、一貫性もなく学校経営や教育活動に活用できる内容にはなっていない。	スクール・ポリシーは、一貫性・整合性があるものの、総花的になっており、学校の特徴・魅力や重点的に取り組む内容を示す指針にはなっていない。	スクール・ポリシーは、一貫性・整合性があり、学校の特徴・魅力や重点的に取り組む内容を示す指針となっている。	スクール・ポリシーは、学校の特徴・魅力や重点的に取り組む内容を示す指針として、生徒及び関係者にも分かりやすいものとなっている。
3	学校経営	目指す学校像の共有・浸透	スクール・ポリシー等の目指す学校像は、生徒・教職員をはじめ関係者に、共有されていない。	スクール・ポリシー等の目指す学校像は、生徒・教職員をはじめ関係者に、形式的には共有されているが、理解・納得はされていない。	スクール・ポリシー等の目指す学校像は、生徒・教職員をはじめ関係者に理解・納得されているが、日常的に参照・活用はされていない。	スクール・ポリシー等の目指す学校像は、生徒・教職員をはじめ関係者に理解・納得され、日常的に参照・活用されている。
4	学校経営	校内推進体制の整備	スクール・ポリシー等の目指す学校像の実現に向け、実際に動く体制はない。	スクール・ポリシー等の目指す学校像の実現に向け、管理職や一部のメンバーが属人的に動いている。	スクール・ポリシー等の目指す学校像の実現に向け、実質的に動くチームや校内組織が整備されている。	スクール・ポリシー等の目指す学校像の実現に向け、教職員全体で組織的・一体的に動ける校内体制が整備されている。
5	学校経営	業務の精選・分担	スクール・ポリシー等に基づいた教育活動や業務内容の精選・再編等の見直しはされておらず、業務は増えている。	スクール・ポリシー等に基づき教育活動や業務内容は一部精選・再編等の見直しが行われたものの、業務は縮減されていない。	スクール・ポリシー等に基づき教育活動や業務内容は精選・再編等の見直しが行われ、学校内での役割分担のもと、業務の適正化が進められている。	スクール・ポリシー等に基づき教育活動や業務内容は精選・再編等の見直しが行われ、学校外の関係者も含めた役割分担のもと、業務の適正化が図られている。
6	教育課程	カリキュラムの開発	育成する資質・能力に向けて、地域・社会の資源を活用した特色・魅力ある教育活動が、総合的な探究の時間等の一部分で属人的に取り組まれている。	育成する資質・能力に向けて、地域・社会の資源を活用した特色・魅力あるカリキュラムが、総合的な探究の時間や課題研究・学校設定教科・科目等においては、系統的・組織的に取り組まれている。	育成する資質・能力に向けて、地域・社会の資源を活用した特色・魅力あるカリキュラムが、総合的な探究の時間等と各教科・科目を相互に関連付けながら教育課程全体として、系統的・組織的に取り組まれている。	育成する資質・能力に向けて、地域・社会の資源を活用した特色・魅力あるカリキュラムが、教育課程外の取組とも相互に連携・関連付けられながら学校全体として、系統的・組織的に取り組まれている。
7	学校経営	広報・生徒募集（地元）	地元（通学圏内）からの生徒募集に向け、効果的な魅力発信や生徒募集施策を検討できておらず、今まで通りの広報を行っている。	地元からの生徒募集目標の達成に向け、中学校や保護者・生徒へのヒアリング等により、生徒募集における現状・課題等の把握は行っているが、効果的な魅力発信や募集施策は行われていない。	地元からの生徒募集目標の達成に向け、現状や課題を踏まえた魅力発信や生徒募集施策の改善を行っているものの、志願者を期待通り確保することはできていない。	地元からの生徒募集目標の達成に向け、生徒同士の交流活動や中学校と連携した取り組み等を通じて、学校の魅力が中学生や保護者、中学校等へ効果的に伝えられており、志願者を期待通り確保することができている。
8	教育課程	学習者中心の教育活動	課題研究及び探究学習において、生徒一人一人が自己の興味・関心等に紐づいた学びを行えず、在り方生き方を主体的に考える機会もなく、高校生活を送っている。	課題研究及び探究学習において、生徒一人一人による自己の興味・関心等に基づいた学び、在り方生き方を主体的に考える機会の必要性は理解されているが、機会の提供はできていない。	課題研究及び探究学習において、一部の生徒が自己の興味・関心等に基づいて学び、在り方生き方を主体的に考え、進路を自分自身の考えで決定している。	課題研究及び探究学習において、生徒一人一人が自己の興味・関心等に基づいて学び、在り方生き方を主体的に考え、多様な進路希望を選択・実現できるようになっている。
9	教育課程	生徒の主体的参画	本事業の企画・運営・推進において、生徒の参画機会は与えられていない。	本事業の企画・運営・推進において、生徒に役割が与えられ、参画している。	本事業の企画・運営・推進における意思決定の際に、生徒に意見提供の機会が与えられ、参画している。	本事業の企画・運営・推進における意思決定に生徒が主体的に参画している。

変革の伴走支援 | MHS版高校魅力化ルーブリックの活用

No.	カテゴリ	項目	1	2	3	4
10	協働体制	協働体制の構築	高校と関係機関等が、対話や合意形成を行う会や体制はない。	高校と関係機関等が、情報交換や意見交換を行う会はあるが、方針・計画・予算等の合意形成や承認を行う体制は構築されていない。	高校と関係機関等が、方針・計画・予算等の合意形成や承認を行う体制は構築されているが、事務局案の追認等に留まり、具体的・実質的な対話はされていない。	高校と関係機関等が、具体的・実質的な対話を行うとともに、方針・計画・予算等の承認・意志決定を行う体制が構築されている。
11	協働体制	協働活動の推進	高校と関係機関等は目標の共有や協働活動ができていない。	高校と関係機関等が目標の共有はしたが、連携した具体的な活動は実施できていない。もしくは、学校からの依頼に応じた連携活動は実施しているが、目標の共有はできていない。	高校と関係機関等が目標を共有し、計画的に活動を実施できているが、地域や関係機関等が学校を支援する一方向的な連携に留まっている。	高校と関係機関等がパートナーとして目標を共有し、学校を支援するという一方向的な活動に留まらず、多様な協働活動を継続的に実施できている。
12	協働体制	PDCAサイクルの確立	具体的な目標・指標は設定されておらず、対話を通じた振り返りや評価も行われていない。	具体的な目標・指標が設定され、各種データによる確認はされているが、対話的な振り返りや改善は行われていない。もしくは、各種データ等によるエビデンスに基づいていない対話や振り返りが行われている。	具体的な目標・指標が設定され、各種データ等のエビデンスに基づき教職員が対話的に評価・改善を行っている。	具体的な目標・指標が関係者に共有され、各種データ等のエビデンスに基づき、教職員に加え関係者等も含めて対話的に評価・改善が行われている。
14	協働体制	コーディネート・外部専門人材の確保	関係機関等との連携協働を推進するコーディネーター人材及び外部専門人材（産業実務家教員）の必要性は認識されていない。	関係機関等との連携協働を推進するコーディネーター人材及び外部専門人材（産業実務家教員）の必要性は認識されているものの、求める要件に見合う十分な財源確保ができていない。	関係機関等との連携協働を推進するコーディネーター人材及び外部専門人材（産業実務家教員）に求める要件の設定と財源確保はできたものの、求める要件に合う人材を採用・配置できていない。	関係機関等との連携協働を推進するコーディネーター人材及び外部専門人材（産業実務家教員）が採用・配置され、効果的に育成・活用されている。
15	協働体制	資金・財源の確保	今まで通りの学校予算以外に、資金や財源の確保はできていない。	国や都道府県の事業等により、当面の資金確保はできているが、当該事業等の終了後の資金確保の目的は立てられていない。	行政の制度や計画に位置づけられるなど、持続的な予算・財源確保の目的が立てられている。	行政による持続的な予算・財源確保に加え、寄付等を活用し自由に使える資金も確保できている。
16	協働体制	資金の確保	【価値理解：なし】 取組の必要性や価値・効果は定量的に可視化されておらず、その必要性も関係機関に理解してもらえていない。	【価値理解：定性的な理解】 取組の必要性や価値・効果は定量的に可視化されていないが、その必要性を関係機関に理解してもらえている。	【データで取組の必要性を可視化。取組効果の可視化は未了。】 取組の必要性や価値が可視化され、関係機関等に共有されているが、取組効果は可視化されていない。	【価値理解：データによる取組効果まで可視化】 取組の必要性や価値・効果がストーリー全体を支える形で可視化され、関係機関等に共有されている。

Copyright © Platform for Sustainable Education and Community All Rights Reserved.

変革の伴走支援 | MHS版高校魅力化ルーブリックの活用

No.	カテゴリ	項目	1	2	3	4
17	現場支援	スクール・ミッションの再定義	設置者は、各高校の存在意義・社会的役割・目指すべき学校像をスクール・ミッションとして再定義していない。本事業との関係性も示されていない。	設置者は、各高校や地元自治体等の関係者と対話・連携せずに、スクール・ミッションを再定義している。本事業との関係性も示されていない。	設置者は、各高校や地元自治体をはじめとする地域社会の関係機関等と対話を行い、スクール・ミッションを再定義し、本事業との関係性も示されている。	設置者は、各高校や地元自治体をはじめとする地域社会の関係機関等との丁寧な対話（例えば学校運営協議会等の場の活用等）を通じて、スクール・ミッションを再定義し、本事業の関係性と共に各高校や関係者に分かりやすく共有している。
18	現場支援	伴走支援	設置者は、各高校のスクール・ミッション及びスクールポリシー等の目指す学校像の実現に向けた、各高校への伴走支援（現場を主体とした個別最適で協力的・継続的な支援）は特に行っていない。もしくは、一斉一律の支援のみを行っている。	設置者は、モデル事業の採択校等の特定高校に対してのみ、事業目的等の実現に向けた伴走支援を行っている。	設置者は、伴走知見の蓄積・展開や伴走支援体制の構築を図り、各高校に対して、目指す学校像の実現に向けた伴走支援を行っている。	設置者は、首長部局や外部人材・外部機関等と連携した伴走支援体制を構築し、各高校・地域等の目指す姿の実現に向けた伴走支援ができています。
20	現場支援	人的支援	設置者は、高校と関係機関等との連携協働を推進するコーディネーター人材の配置・育成に関与していない。	設置者は、高校と関係機関等との連携協働を推進するコーディネーター人材の採用支援や研修には関与しているが、人件費は負担していない。	設置者は、高校と関係機関等との連携協働を推進するコーディネーター人材の人件費を含め採用や研修等を行っているが、持続可能な給与水準やキャリアパス等の仕組みにはなっていない。	設置者は、高校と関係機関等との連携協働を推進するコーディネーター人材の持続可能な配置・育成・キャリアパスの仕組みを構築している。
21	現場支援	調整支援	設置者は、高校と産業界・大学・高専・研究機関等との連携・協働や人材マッチング支援・調整を、特段行っていない。	設置者は、高校と大学・産業界等との連携・協働や人材マッチングの支援・調整等を、依頼や要望があるときに単発的・属人的に行っている。	設置者は、高校と大学・産業界等との連携・協働や人材マッチングの支援・調整等を、計画的・組織的に進めている。	設置者は、高校と大学・産業界等との連携・協働を計画的・組織的に進めるとともに、人材データや関連情報のプラットフォームを構築するなど効率的・効果的な仕組みも活用している。
22	現場支援	財政支援	設置者は、今まで通りの運営予算以外に、資金や財源の確保はできていない。	設置者は、国の事業や交付金、地元市町村からの支援等により、高校改革に必要な当面の資金確保はできているが、当該事業等の終了後の資金確保の目途は立てられていない。	設置者は、行政計画や制度に位置づけるなどして、持続的な予算・財源確保の目途を立てられている。	設置者は、行政による持続的な予算・財源確保に加え、ふるさと納税や地元市町村・産業界との連携等から、高校改革に活用できる外部資金も確保できている。
23	現場支援	情報支援	【事例紹介：なし】 ●現場への伴走は行うことなく、情報共有や報告を受けるまでにとどまっている。	【事例紹介：属人的に依頼ベースで情報提供】 ●現場への伴走の必要性に関する機運が教育委員会内で高まり始めているが、何をやっていいかわからない状態で足踏みしている。	●各校の課題を把握し、それにあわせて県内他校・全国の先進事例の提供を行うことができている。	●各校の課題に合わせて、県内他校・全国の先進事例の提供を行うだけでなく、共同で視察に行くなど、問題意識を共有しながらあるべき姿を共創することができている。
24	現場支援	展開支援	設置者は、先導的取り組みの成果や知見等を他の高校へ展開・普及するための取組を、特に行っていない。	設置者は、関連事業の成果発表会や報告書・事例集の作成や指導主事等の属人的な知識や経験による情報提供や指導・助言はしているが、他の高校への展開・普及には至っていない。	設置者は、外部の専門人材や外部機関等とも連携し、都道府県内や全国の先導的取り組みに関する情報収集及び失敗事例・成功事例の分析等を行い、成果や知見等を研修や知見集などを通じて普及・展開につとめている。	設置者は、設置者主体による知見の集約・普及・展開に加え、各高校等の取り組みや知見を集約・共有・活用できるデータベースや学びあいの仕組み等を構築し、知見の共創を進めている。
25	現場支援	政策マネジメント	設置者は、高校改革における具体的な目標・指標を設定しておらず、データ・エビデンスと対話に基づく振り返りや評価も実質的には行われていない。	設置者は、具体的な目標・指標を設定し、各種データによる確認はしているが、対話的な振り返りや分析・改善は行われていない。もしくは、各種データやエビデンスに基づかない対話や振り返りを行っている。	設置者は、具体的な目標・指標を設定し、各種データ等のエビデンスに基づき教育委員会内で対話的に評価・分析・改善を行っている。	設置者は、具体的な目標・指標を関係者に共有し、各種データ等のエビデンスに基づき、教育委員会内に加え関係者等も含めて対話的に評価・分析・改善を行っている。
26	現場支援	物的支援	【市町村への予算付与：なし】	【市町村への予算付与：単年度】	【市町村への予算付与：3年間】	【市町村への予算付与：計画化。持続的なモデル】 ●ふるさと納税などの制度を活用するなど、現場が活用できる予算を継続的に確保するための仕組みを構築することができている。

伴走支援活動における今後の課題

課題形成のための 共通の指標づくり

共通のあるべき姿や評価指標が存在しないため「いつまでに・何が・どんな状態になっているべきなのか」といった評価軸を明確にしていく

伴走支援のプロセスの明確化

県内普及・横展開において、どのような伴走支援が必要とされるのか、またそれを実践するためにはどのようなリソースが必要なのかなどを明確にしていく

伴走支援効果の明確化

伴走者としての現場支援活動、伴走支援事務局としての全体支援活動などの伴走支援に関する効果検証を行い、どのような場面で伴走支援が必要となるのか、誰が行うべきかなどの提言を行うこと



5. 次年度に向けた課題



今後の課題と次年度の活動



目的



進め方

1

自走に向けた
共通課題における
伴走支援

最終年度を迎える指定校に向け
事業を持続可能にするために
必要な資源・座組・意思決定を
促すための支援

- 共通課題伴走チームの組成、チーム内での情報共有を定例化
- 伴走担当者より、以下のテーマに関する情報提供及び支援
- 「継続に向けた資金調達・座組」「取組の振り返りと教育課程への反映」「県内普及・広域連携」

2

個別課題における
伴走支援

協働体制に課題を抱える指定校
ならびに2年目の指定校に向けて
3年目を望ましい状態で迎えら
れるように支援

- 各指定校の課題をループリックなどを活用することで、明確にしていく
- 課題に紐づくアドバイザーを任命し、伴走者とアドバイザーでチームを組成して課題解決を支援していく

3

モデル化、その他
地域への展開に
むけた調査分析

モデルを策定するための調査を
指定校に対して行い、他の地域
や県内普及の際のガイドとなる
ようまとめていく

- 普及に向けて先行して実践している学校現場について情報収集・深堀調査・インタビューを行う
- 収集したデータを分析し、いくつかのモデルとしてまとめていく
- 実践のためのノウハウ、県内普及・推進のためのノウハウなど

4

普及に向けたPRと
関係機関の巻き込み

産業界からの幅広い理解・賛同、
都道府県内高校からの
理解・賛同など翌年度以降の
普及に向けて関係者を広く
巻き込んでいく

- 事業に関わった産業界・企業から彼らの視点から見た価値や意味を地域の産業界・企業にむけて発信をしていく
- 指定校のある都道府県内の専門高校、知事部局、基礎自治体に向けて横展開・普及に向けての情報提供、巻き込みを行っていく

令和5年度の伴走支援推進体制図

